

令和元年度市民アンケート調査 結果報告書

令和2年2月

盛岡市

目 次

I	事業の概要	1
II	調査結果と考察	
テーマ1	図書サービスについて	
問1	盛岡市立の図書館利用	3
問2	図書室の利用	5
問3	図書館や図書室の利用目的	6
問4	図書館や図書室を利用しない理由	8
問5	図書館のサービス充実	10
問6	過去1年間での移動図書館車の利用	13
問7	移動図書館車のサービス充実	14
問8	図書館の施設外での図書サービス充実	17
テーマ2	盛岡の食と農について	
問9	市内の産地が明示された農畜産物の認識	19
問10	盛岡産農畜産物の意識的購入	21
問11	盛岡産農畜産物を身の回りの人物に薦めるか	24
問12	盛岡の美味いもんアンバサダーの認知度	26
問13	美食王国もりおかウェブサイトの認知度	28
問14	美食王国もりおかファンクラブの認知度	30
問15	食や農業体験への興味関心	31
テーマ3	環境意識について	
問16	生活環境の変化	35
問17	自然との共生	38
問18	環境保全	40
問19	資源の循環的利用及びエネルギーの有効利用	42
問20	地球規模の環境問題への関心	44
問21	身の周りの環境問題への関心	47
問22	地球環境のために実行している取組	49
問23	参加したいと思う環境活動	55
テーマ4	地域コミュニティについて	
問24	地域活動への参加	58
問25	地域活動に積極的な理由	60
問26	地域活動に消極的な理由	64
問27	住民により組織された団体の持つ地域課題の解決策	67
問28	住民以外により組織された団体の関与による地域課題の解決策	70

I 事業の概要

1 事業の目的

市民アンケート調査は、市政に対する市民の考えや意見を把握し、調査結果を施策検討の際の基礎資料として活用することにより、「市民参画や協働によるまちづくり」を図るため毎年実施しています。

2 事業テーマ

(1) 図書サービスについて	(担当：盛岡市立図書館)	8問
(2) 盛岡の食と農について	(担当：農林部農政課食と農の連携室)	7問
(3) 環境意識について	(担当：環境部環境企画課)	8問
(4) 地域コミュニティについて	(担当：市民部市民協働推進課)	5問

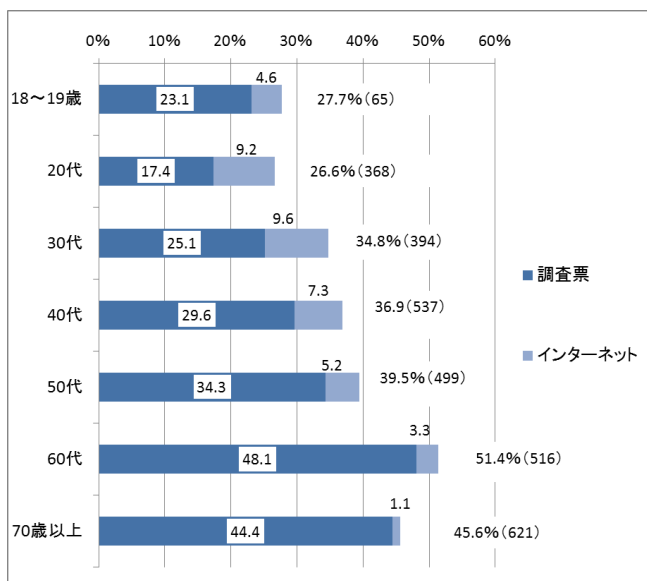
3 事業の設計

(1) 実施方法	アンケート方式による調査
(2) 調査地域	盛岡市全域
(3) 調査対象者	満18歳以上の市民
(4) 標本数	3,000人
(5) 抽出方法	住民票ファイル(令和元年6月30日)から無作為抽出
(6) 調査方法	郵送による配布・回収(インターネット回答を併用)
(7) 調査期間	令和元年8月14日～8月27日

4 調査の回収結果

(1) 対象者数	3,000人
(2) 有効回収数	1,196人
(3) 有効回収率	39.9%

【年代別回収率と回答媒体の内訳】



有効回収数 1,196人のうち、
インターネットでの回答…… 164人
調査票での回答………1,032人

全体の有効回収率は平成29年度実施の類似調査(第22回市民意識調査)の45.6%より5.7ポイント低く、回答者のうちインターネットでの回答率は13.7%で、同調査の10.5%より3.2ポイント高くなった。

全体の回答率は下がったが、回答者のうち、インターネット回答の割合が増えた。

() 内の数は、その年代の対象者の人数

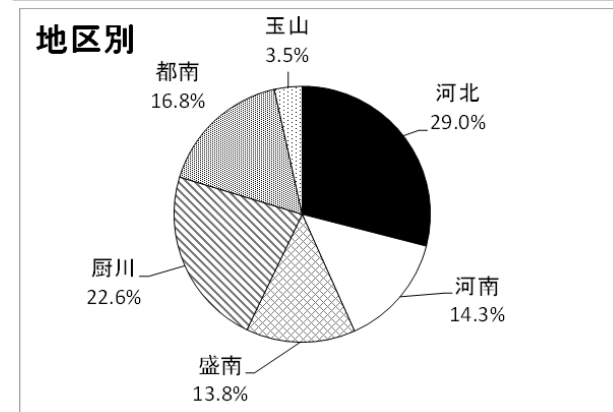
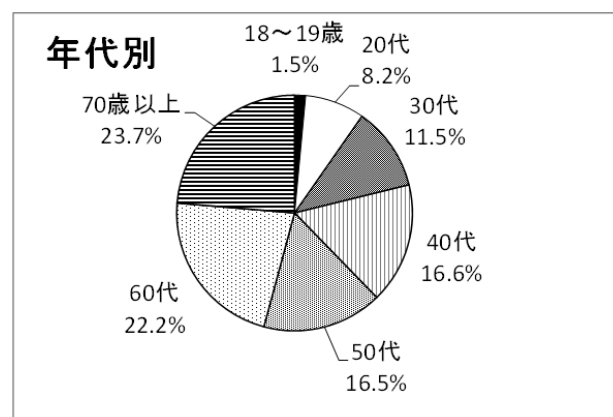
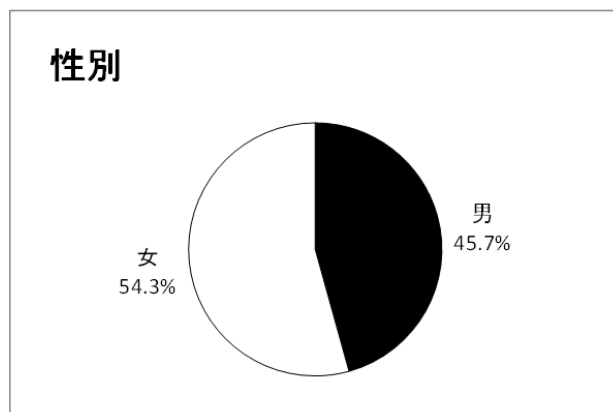
5 調査回答者の内訳

区分	実数 (人)
全 体	1,196
【性別】	
男 性	547
女 性	649
【年代別】	
18 歳 ~ 19 歳	18
20 歳 ~ 29 歳	98
30 歳 ~ 39 歳	137
40 歳 ~ 49 歳	198
50 歳 ~ 59 歳	197
60 歳 ~ 69 歳	265
70 歳 以 上	283
【地区別】	
河 北	347
河 南	171
盛 南	165
厨 川	270
都 南	201
玉 山	42

【地区別】の区分について

現行のコミュニティ区分を基本単位とし、市域を次の6地区に区分しています。

1	河北	桜城, 仁王, 上田, 緑が丘 松園, 山岸, 上米内
2	河南	城南, 加賀野, 中野, 杜陵 大慈寺, 築川
3	盛南	仙北, 本宮, 太田, 繫
4	厨川	西厨川, 土淵, 東厨川, 青山 みたけ, 北厨川
5	都南	見前, 飯岡, 乙部
6	玉山	好摩, 巻堀姫神, 渋民, 玉山藪川



6 留意事項について

- (1) 比率はすべて百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入して算出しました。したがって、合計が100.0%とならない場合があります。
- (2) 複数回答を求める設問では、その回答の数値は延べ回答数に対する百分率ではなく回答者数を100とした場合の百分率です。したがって、合計は100.0%を超えることがあります。
- (3) 「N」は、その設問の回答者の実数で、比率算出の基礎になります。
- (4) 年代別の傾向分析にあたっては、18歳~19歳の回答者が18人と少ないため、20代と合わせた数値を使っています。

Ⅱ 調査結果と考察

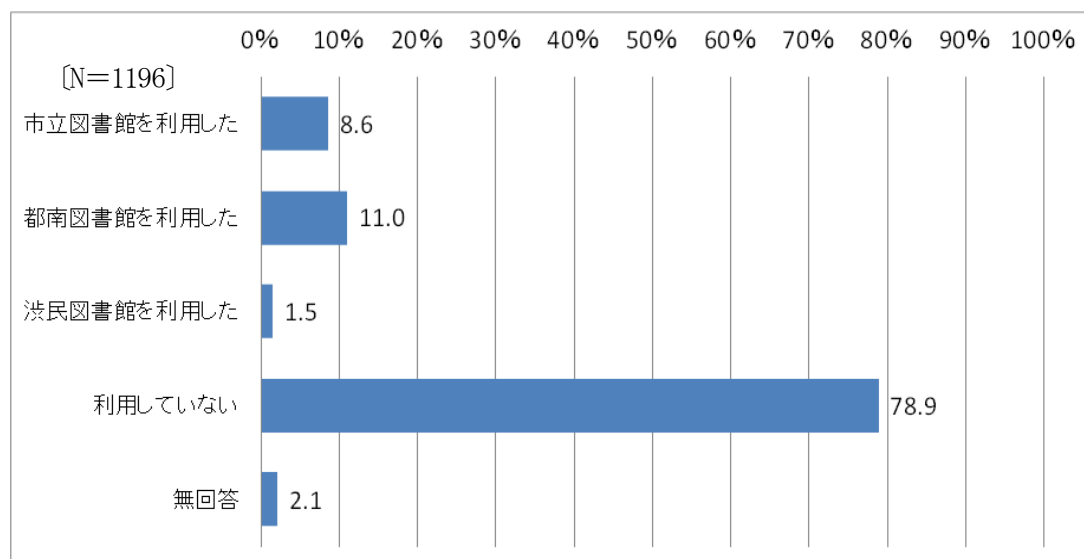
《テーマ1 図書サービスについて》

盛岡市立の図書館は、市立図書館、都南図書館、渋民図書館の3館あり、分館として地区活動センター図書室（青山・仙北・松園・太田）があります。移動図書館車は、旧盛岡市域と都南地区を巡回しています。

問1 あなたは、過去1年間で盛岡市立の図書館を利用しましたか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 市立図書館（高松一）を利用した | 2 都南図書館（永井）を利用した |
| 3 渋民図書館（渋民字鶴塚）を利用した | 4 利用していない |

【全体】



利用促進の取組は継続した課題である。問4において、利用していない理由として、「自宅や職場の近くにないから」、「余暇がないから」との回答が多いこと、また、令和元年7～8月に実施した図書館独自の調査では、エレベーター等が未設置で高齢者等にとって利用しにくいとの指摘も多いことから、移動図書館車や図書館以外の施設での図書の受取・返却サービスの拡充し利便性を向上させるほか、市立図書館の早急なバリアフリー化を進める必要がある。

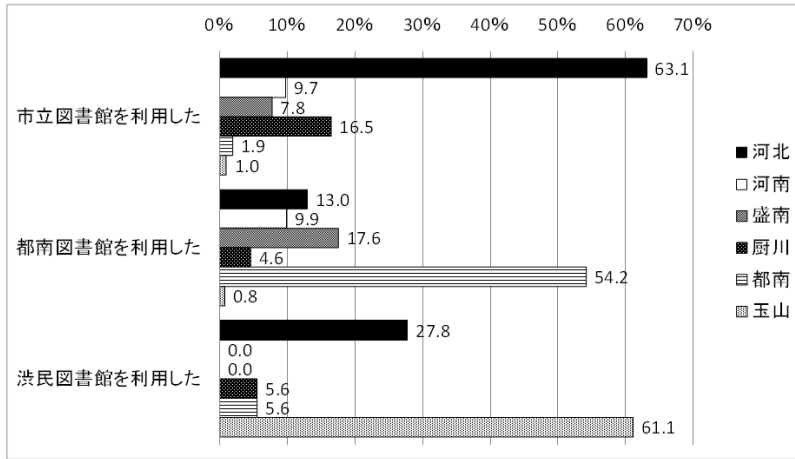
また、住民が必要な知識や情報を積極的に提示し、PRすることにより、地域住民の生活上の問題や課題解決を図るための情報収集の拠点となる等、公立図書館としての新たな可能性も探していきたい。

【参考】

各図書館利用者の延べ人数

年度	市立図書館	都南図書館	渋民図書館
28年度	67,517	79,714	12,555
29年度	63,143	78,036	11,862
30年度	63,170	76,629	11,240

【地区別】（図書館利用者の地区別内訳）



洪民図書館については利用者が18名と少数のため参考情報となるが、設置場所に近い地域の住民が多く利用している実態が確認できた。図書館まで距離がある河南地区や厨川地区の住民が、もっと図書館サービスを利用できるように、行政サービスの公平性の確保の観点から、移動図書館車の運行や図書の受取・返却拠点の設置に取り組む。

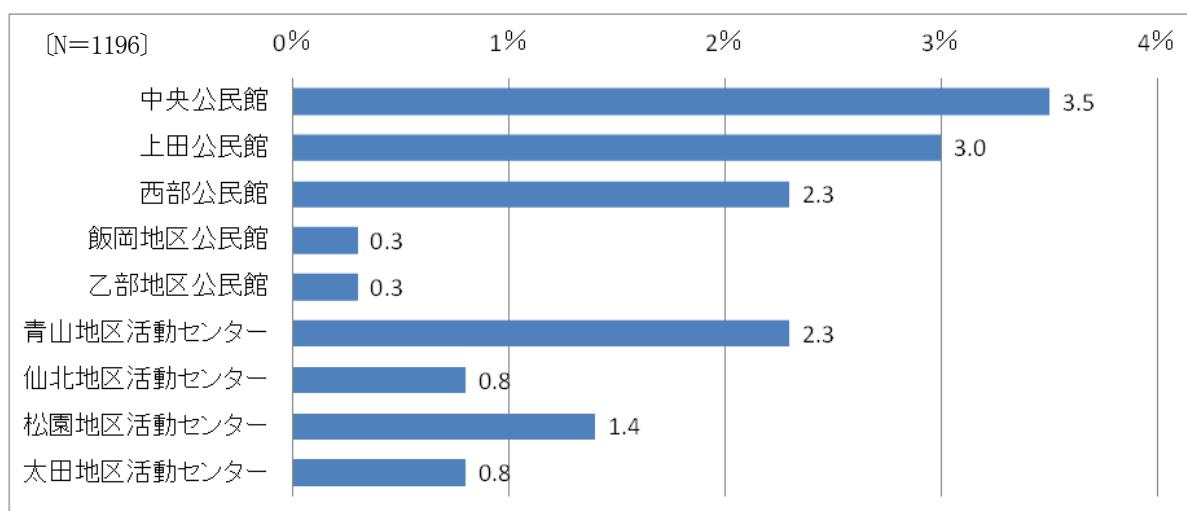
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	市立図書館を利用した	都南図書館を利用した	洪民図書館を利用した	利用していない	無回答
地区	全体	1196	103	131	18	944	25
	河北	347	65	17	5	265	8
	河南	171	10	13	0	148	3
	盛南	165	8	23	0	132	4
	厨川	270	17	6	1	244	6
	都南	201	2	71	1	129	1
	玉山	42	1	1	11	26	3
性別	男	547	50	55	6	437	8
	女	649	53	76	12	507	17
年齢	18～19歳	18	1	0	1	15	1
	20～29歳	98	6	12	3	79	0
	30～39歳	137	19	11	2	107	2
	40～49歳	198	16	33	1	150	2
	50～59歳	197	15	15	5	165	0
	60～69歳	265	16	36	3	208	8
	70歳以上	283	30	24	3	220	12

問2 あなたは、過去3年間で、公民館や地区活動センターの図書室を利用しましたか。利用した回数が多い施設に3つまで○を付けてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 中央公民館図書室（愛宕町） | 2 上田公民館図書室（上田四） |
| 3 西部公民館図書室（南青山町） | 4 飯岡地区公民館図書室（下飯岡） |
| 5 乙部地区公民館図書室（乙部） | 6 青山地区活動センター図書室（青山三） |
| 7 仙北地区活動センター図書室（仙北二） | 8 松園地区活動センター図書室（西松園二） |
| 9 太田地区活動センター図書室（中太田深持） | 10 利用していない |

【全体】



全ての施設にニーズがあり、身近な図書室として利用されている。今後、読書活動の地域拠点として、配本等を充実させ、一層の利用促進を図る。

【参考】

令和元年9月1日時点の人口(292,428人)に調査結果の率をかけた推計による利用者数と実績を比較。
 なお、中央公民館は平成30年度休館につき、平成29年度のものを利用。青山地区活動センターは平成30年6月～平成31年3月の工事期間中は規模を縮小し、図書コーナーとして運営していたもの。

	推計による利用者数(人)	平成30年度実績(人)
中央公民館	10,235	8,811
上田公民館	8,773	12,200
西部公民館	6,726	8,750
飯岡地区公民館	877	809
乙部地区公民館	877	146
青山地区活動センター	6,726	4,820
仙北地区活動センター	2,339	6,743
松園地区活動センター	4,094	10,078
太田地区活動センター	2,339	3,696

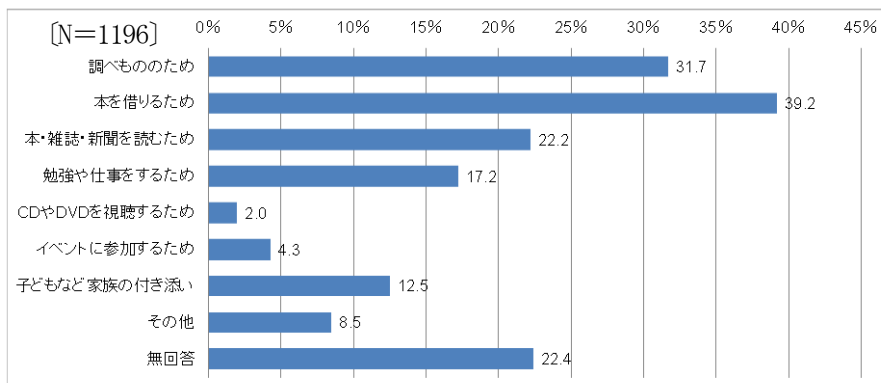
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	中央公民館	上田公民館	西部公民館	飯岡地区公民館	乙部地区公民館	青山地区活動センター	仙北地区活動センター	松園地区活動センター	太田地区活動センター	利用していない	無回答
	全体	1196	42	36	28	4	4	27	9	17	10	1017	39
地区	河北	347	27	30	6	1	0	4	0	17	1	275	9
	河南	171	9	1	0	0	0	0	0	0	0	156	6
	盛南	165	2	2	2	0	0	0	8	0	8	142	4
	厨川	270	3	2	20	0	1	23	1	0	1	220	9
	都南	201	1	0	0	3	3	0	0	0	0	188	6
	玉山	42	0	1	0	0	0	0	0	0	0	36	5
性別	男	547	16	18	11	2	3	10	3	4	8	477	11
	女	649	26	18	17	2	1	17	6	13	2	540	28
年齢	18～19歳	18	2	1	2	0	0	0	0	0	0	13	0
	20～29歳	98	0	2	1	0	0	0	0	1	0	94	0
	30～39歳	137	4	5	3	0	1	1	0	3	1	121	1
	40～49歳	198	4	5	4	1	0	2	1	2	0	176	5
	50～59歳	197	12	2	3	1	0	2	1	2	1	177	3
	60～69歳	265	10	6	6	1	1	7	2	3	1	228	9
	70歳以上	283	10	15	9	1	2	15	5	6	7	208	21

問3 あなたは、どのような目的で図書館や図書室を利用しますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 調べもののため | 2 本を借りるため |
| 3 本・雑誌・新聞を読むため | 4 勉強や仕事をするため |
| 5 CDやDVDを視聴するため | 6 イベントに参加するため |
| 7 子どもなど家族の付き添い | 8 その他 () |

【全体】



「本を借りるため」及び「調べものをするため」との回答が多く、図書館本来の役割が重視されていることが改めて確認できた。一方で「イベントに参加するため」の割合は低く、内容の見直し等、普段図書館に足を運ばない人にも来館してもらえよう取り組む。

公立図書館の目的である市民が情報収集をするための拠点となるため、調べ物をする人の利便性を高め、より便利なサービスを提供する必要がある。インターネットの環境を整える等、ハードの対応のほか、窓口での資料を提供するきめ細やかなレファレンスサービスを充実させる必要がある。また、どのようなサービスが提供されているか、更に積極的にPRしていくことが課題である。

※「その他」に記載された主なもの

- ・仕事のレポート、趣味サークルの原稿書きのために利用。自宅以外の静かな環境を求めて利用している。
- ・ゆったりとした時を過ごす。気分転換等。
- ・子ども向け講座の受講。

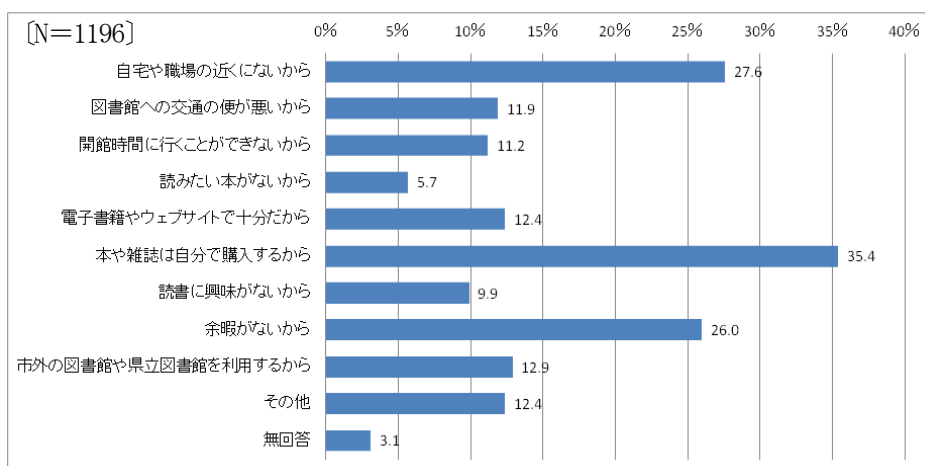
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	調べもののため	本を借りるため	本・雑誌・新聞を読むため	勉強や仕事をするため	CDやDVDを視聴するため	イベントに参加するため	子どもなど家族の付き添い	その他	無回答
	全体	1196	379	469	265	206	24	51	150	102	268
地区	河北	347	111	131	81	69	4	18	40	28	85
	河南	171	57	70	31	28	1	9	18	20	35
	盛南	165	47	62	38	31	4	9	32	12	35
	厨川	270	90	114	56	43	4	8	26	24	56
	都南	201	61	78	52	27	10	7	28	18	44
	玉山	42	13	14	7	8	1	0	6	0	13
性別	男	547	179	180	125	86	14	17	58	55	118
	女	649	200	289	140	120	10	34	92	47	150
年齢	18～19歳	18	6	6	4	10	0	1	1	0	2
	20～29歳	98	38	53	27	42	0	2	4	5	10
	30～39歳	137	31	64	29	39	2	12	34	6	15
	40～49歳	198	74	89	46	43	9	5	56	12	32
	50～59歳	197	65	85	43	36	2	13	28	16	33
	60～69歳	265	90	94	68	27	9	10	12	23	78
	70歳以上	283	75	78	48	9	2	8	15	40	98

問4 問1で利用していないと回答した方にお聞きします。あなたが盛岡市立の図書館を利用しない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

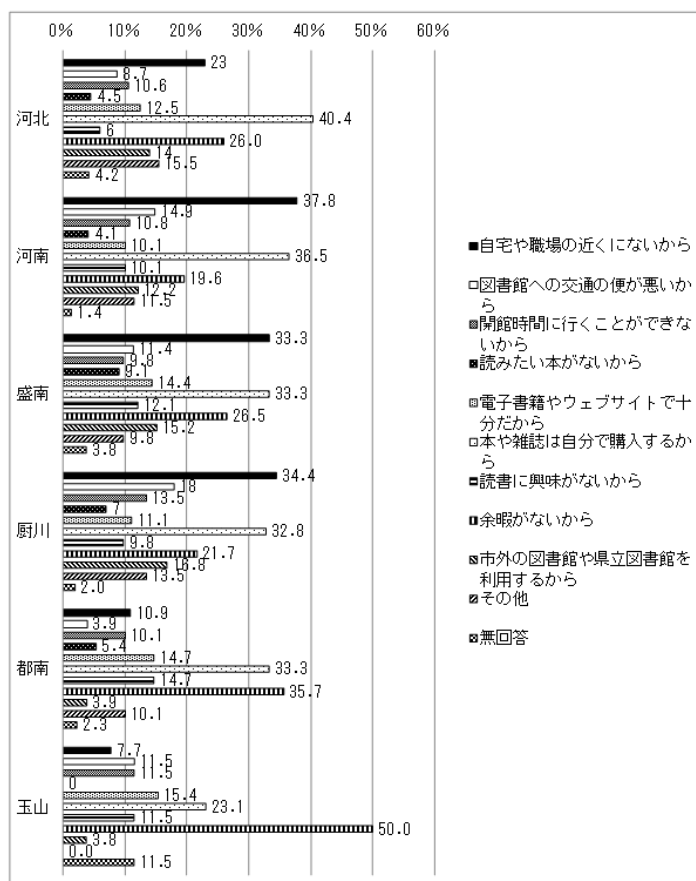
- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 自宅や職場の近くにないから | 2 図書館への交通の便が悪いから |
| 3 開館時間に行くことができないから | 4 読みたい本がないから |
| 5 電子書籍やウェブサイトで十分だから | 6 本や雑誌は自分で購入するから |
| 7 読書に興味がないから | 8 余暇がないから |
| 9 市外の図書館や県立図書館を利用するから | 10 その他（ ） |

【全体】



「本や雑誌は自分で購入するから」が最も多く、次いで「自宅や職場の近くにないから」と「余暇がないから」との回答が多い。自分で購入する人の中には、図書館が身近にないため購入している方もいると思われることから、図書館以外での受取・返却が可能な拠点づくり等に力を入れる。

【地区別】



玉山地域については回答数が少なく参考情報となるが、「余暇がないから」を選んだ割合が、玉山地区で最も高い理由については、本調査の結果だけでは分析が困難だが、地域エリアが広いことから、渋民図書館まで移動する距離がある、あるいは時間かかる住民が多いことが理由の一つであると推察する。

図書館から距離のある地域における、貸出拠点のニーズについて調査が必要と考える。

【全体を通じて】

自由記載欄に「駐車場が有料だから」という意見があったが、市立の3館の駐車場は無料であり、県立図書館と混同している回答が多く見られた。

※「その他」に記載された主なもの

- ・活動センターの図書室や移動図書館を利用するから。
- ・高齢等の理由により、図書館に行くことが難しいから。

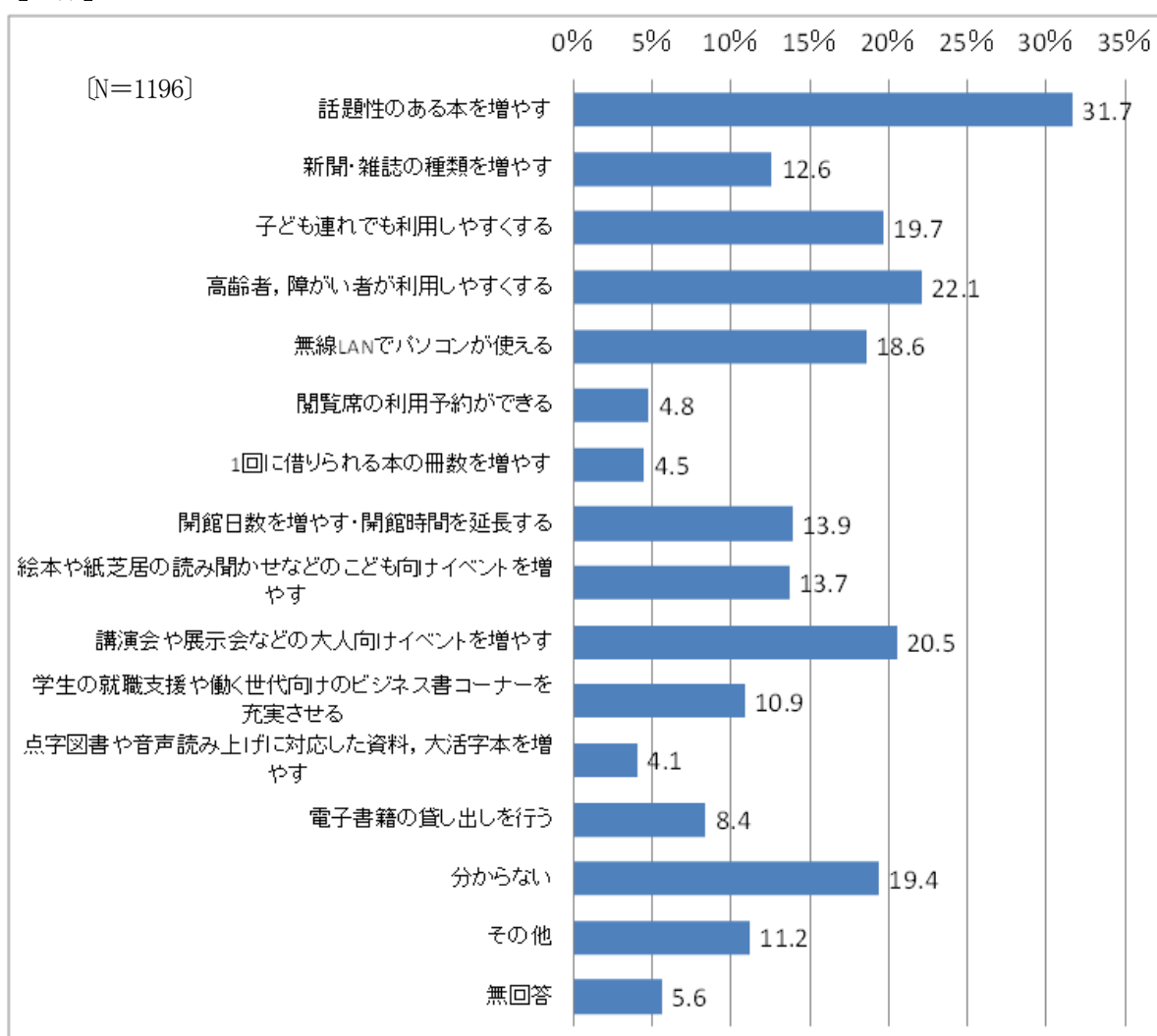
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	自宅や職場の近くにないから	図書館への交通の便が悪いから	開館時間に行くことができないから	読みたい本がないから	電子書籍やウェブサイトで十分だから	本や雑誌は自分で購入するから	読書に興味がないから	余暇がないから	市外の図書館や県立図書館を利用するから	その他	無回答
	全体	944	261	112	106	54	117	334	93	245	122	117	28
地区	河北	265	61	23	28	12	33	107	16	69	37	41	11
	河南	148	56	22	16	6	15	54	15	29	18	17	2
	盛南	132	44	15	13	12	19	44	16	35	20	13	5
	厨川	244	84	44	33	17	27	80	24	53	41	33	4
	都南	129	14	5	13	7	19	43	19	46	5	13	3
	玉山	26	2	3	3	0	4	6	3	13	1	0	3
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性別	男	437	99	37	50	27	70	144	56	107	56	52	12
	女	507	162	75	56	27	47	190	37	138	66	65	16
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年齢	18～19歳	15	3	1	1	2	1	2	1	4	5	1	2
	20～29歳	79	27	13	10	5	14	31	10	22	12	7	1
	30～39歳	107	23	8	20	9	23	25	9	41	20	13	3
	40～49歳	150	39	16	23	9	20	38	14	40	23	16	2
	50～59歳	165	42	16	27	6	26	58	15	47	22	18	8
	60～69歳	208	62	21	19	14	23	91	20	47	23	24	5
	70歳以上	220	65	37	6	9	10	89	24	44	17	38	7
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問5 あなたは、盛岡市立の図書館がもっと魅力的な施設になるには、どのようなサービスを充実させると良いと思いますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

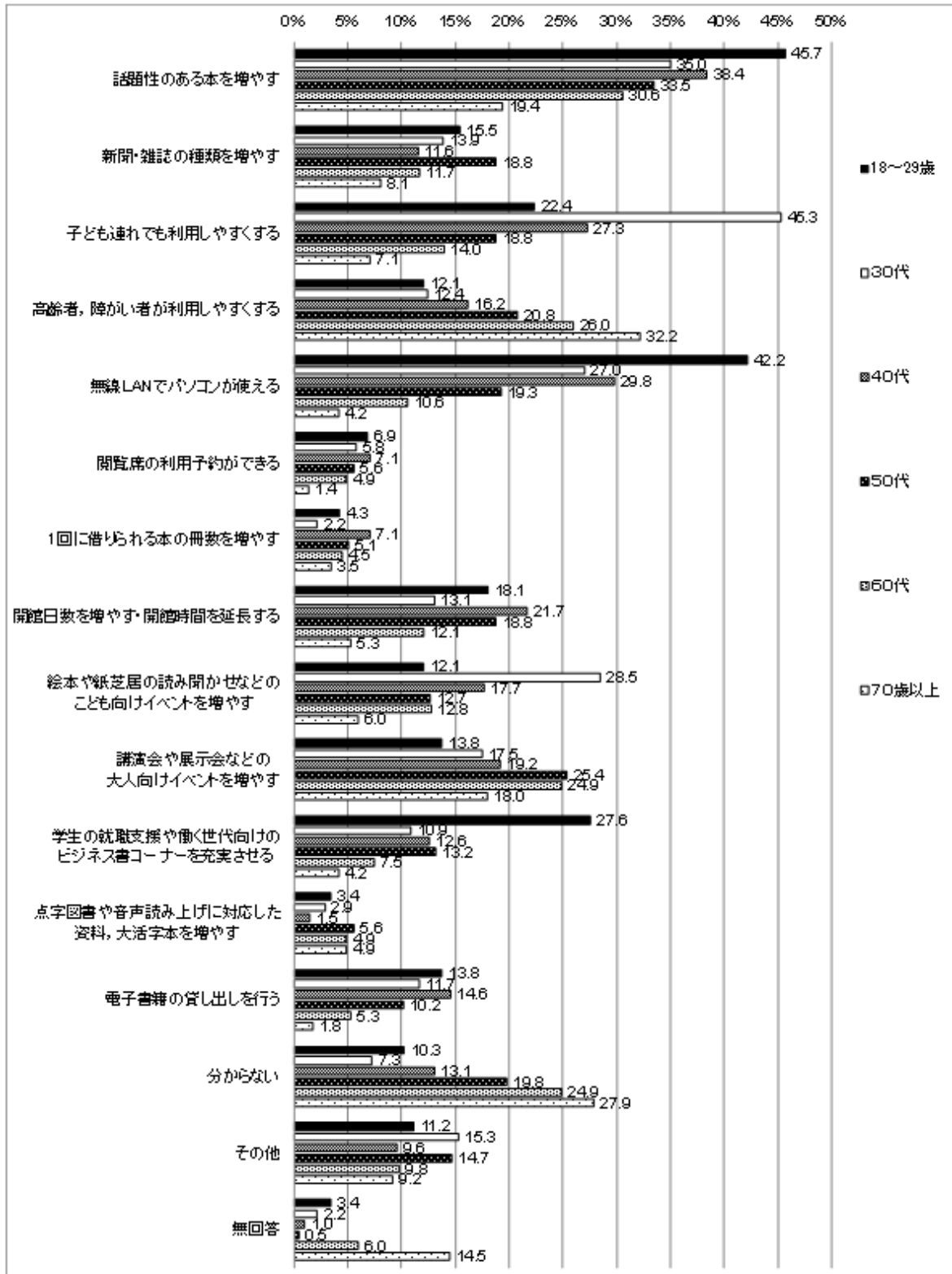
- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 話題性のある本を増やす | 2 新聞・雑誌の種類を増やす |
| 3 子ども連れでも利用しやすくする | 4 高齢者、障がい者が利用しやすくする |
| 5 無線LANでパソコンが使える | 6 閲覧席の利用予約ができる |
| 7 1回に借りられる本の冊数を増やす | 8 開館日数を増やす・開館時間を延長する |
| 9 絵本や紙芝居の読み聞かせなどの子ども向けイベントを増やす | 10 講演会や展示会などの大人向けイベントを増やす |
| 11 学生の就職支援や働く世代向けのビジネス書コーナーを充実させる | 12 点字図書や音声読み上げに対応した資料、大活字本を増やす |
| 13 電子書籍の貸し出しを行う | 14 分からない |
| 15 その他 () | |

【全体】



利用者の期待に応える本の収集とともに、インターネットや書店からは得られにくい正確で体系的な知識や情報を提供できるよう努める。郷土資料をはじめ市民に読んで欲しい本を、より効果的に紹介する等して、良書に親しむ機会を増やすとともに、市民が生活に必要な情報を得る場として訪れてほしい。設備面については、改修工事を予定していることから、一層利用しやすい施設となるよう取り組む。

【年代別】



30代では、「子ども連れでも利用しやすくする」、「絵本や紙芝居の読み聞かせ等の子ども向けイベントを増やす」が多く選ばれており、子育て世代は子どもを中心に図書館の利用を考えている傾向が強いことがうかがえる。

18歳～29歳の若年層には、無線LANの設置や学生の就職支援・ビジネス書コーナーが望まれている。こうした意見を踏まえて改修事業を進めるとともに、できるだけ多くの利用者の要望に応えられるよう、展示や事業の在り方等、ソフト面でのサービスの充実にも取り組む。

【全体を通じて】

自由記載欄には、カフェ等飲食施設の併設を望む声が多く見られたが、スペースの確保が必要であり、設置には十分な検討を要する。広報・テレビ・ラジオ等で情報を周知してほしいとの意見も見られることから、移動図書館車の巡回日程や新刊本等に関する情報提供は、ウェブサイトだけではなく、多様な手段を用いるよう取り組む。

※「その他」に記載された主なもの

- ・カフェや飲食スペースを併設する。
- ・広報等で宣伝を活発に行う。
- ・交通の便を良くする。

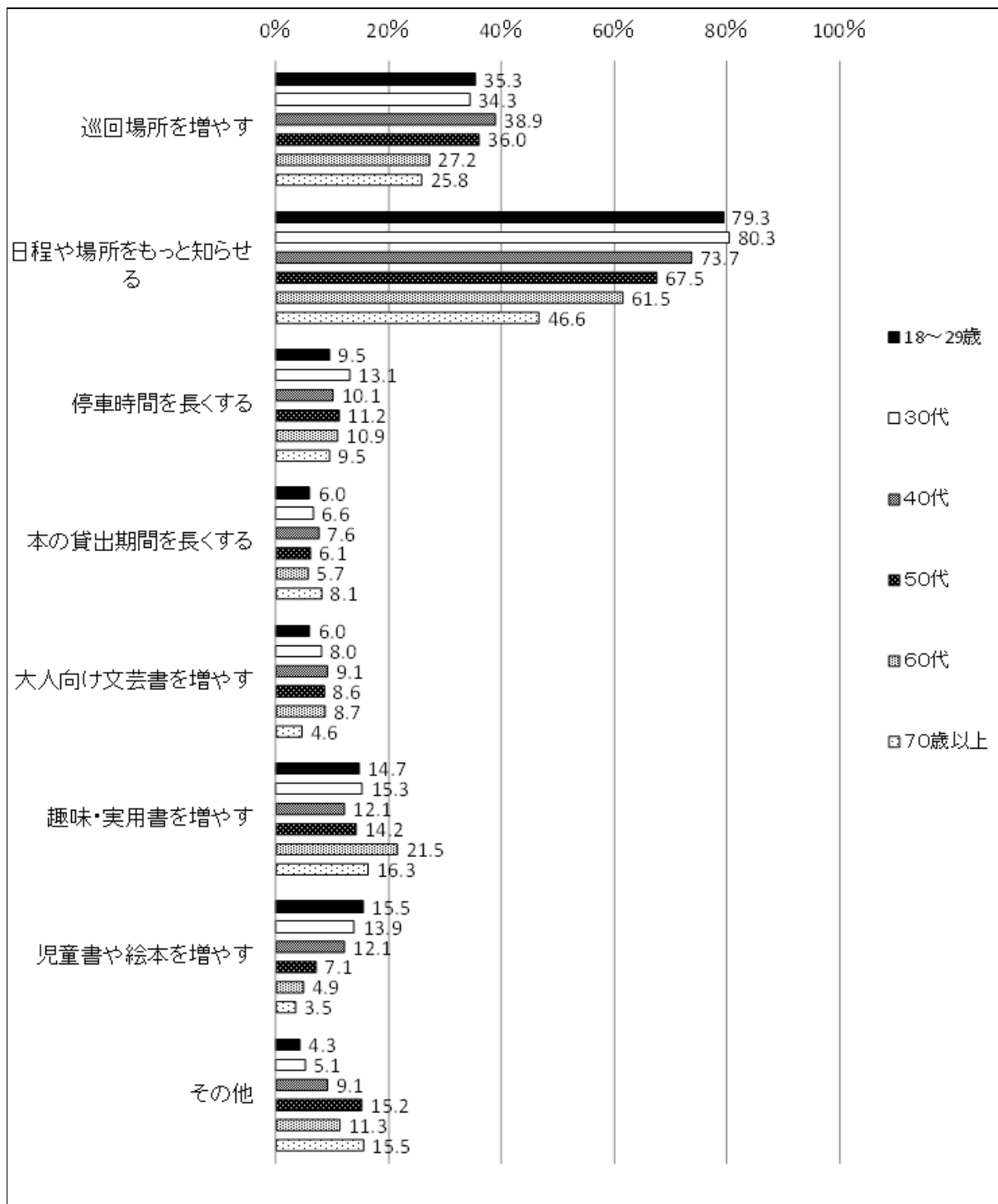
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	話題性のある本を増やす	新聞・雑誌の種類を増やす	子ども連れでも利用しやすくする	高齢者、障がい者が利用しやすくする	無線LANでパソコンが使える	閲覧席の利用予約ができる	1回に借りられる本の冊数を増やす	開館日数を増やす・開館時間を延長する	絵本や紙芝居の読み聞かせなどのこども向けイベントを増やす	講演会や展示会などの大人向けイベントを増やす	学生の就職支援や働く世代向けのビジネス書コーナーを充実させる	点字図書や音声読み上げに対応した資料、大活字本を増やす	電子書籍の貸し出しを行う	分からない	その他	無回答
	全体	1196	379	151	236	264	223	58	54	166	164	245	130	49	100	232	134	66
地区	河北	347	103	53	57	68	68	19	15	54	42	68	46	15	31	70	46	18
	河南	171	56	14	31	40	32	11	8	24	32	36	17	9	14	34	20	11
	盛南	165	59	22	40	36	40	11	7	26	19	31	17	2	17	25	24	8
	厨川	270	85	30	59	71	40	7	14	28	42	54	26	12	19	59	27	15
	都南	201	59	27	43	41	33	9	8	29	25	49	19	11	14	39	15	10
	玉山	42	17	5	6	8	10	1	2	5	4	7	5	0	5	5	2	5
性別	男	547	172	75	102	105	133	19	23	64	69	105	65	22	58	108	61	27
	女	649	207	76	134	159	90	39	31	102	95	140	65	27	42	124	73	40
年齢	18～19歳	18	12	1	4	3	8	1	0	4	4	5	7	1	2	2	1	0
	20～29歳	98	41	17	22	11	41	7	5	17	10	11	25	3	14	10	12	4
	30～39歳	137	48	19	62	17	37	8	3	18	39	24	15	4	16	10	21	3
	40～49歳	198	76	23	54	32	59	14	14	43	35	38	25	3	29	26	19	2
	50～59歳	197	66	37	37	41	38	11	10	37	25	50	26	11	20	39	29	1
	60～69歳	265	81	31	37	69	28	13	12	32	34	66	20	13	14	66	26	16
	70歳以上	283	55	23	20	91	12	4	10	15	17	51	12	14	5	79	26	41

「日程や場所をもっと知らせる」が6割を超え、市のホームページに運行情報を掲載するだけでなく、多くの人が目にすることができる複数の周知方法を展開していく必要性を感じた。

2番目に多い回答は、「巡回場所を増やす」だが、一定以上の利用者が見込まれれば、地域の要望に応じてステーションを設置できるという制度が、十分に認識されていないことがうかがえた。図書館が自宅等から遠い人でも、気軽に図書を借りられる便利な制度であり、身近な行政サービスの一つとして、さらに定着していくよう努める。

【年代別】



どの年代でも「日程や場所をもっと知らせる」が多く、スマートフォン等で情報が得られるようにすることや、幅広い世代に対応できるよう周知方法の多様化を図る必要が明らかになった。また、移動図書館車が運行する、平日の日中に利用する割合が高い世代のニーズをよりの確に把握したうえで図書選定を行う等、図書館に足を運びにくい方たちへのサービスを充実させる。

【全体を通じて】

巡回地域の利用状況を精査し、図書館に来ることが困難な市民に対しても、できるだけ公平な図書サービスが提供できるよう、ステーションの設置場所や、運行頻度、リクエスト方法、サービスの周知方法等を見直しして、利用者にとって使いやすくなるよう改善を図る。

※「その他」に記載された主なもの

- ・人の多い施設や場所に行く。
- ・移動図書館車の宣伝。
- ・週末に巡回する。

【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	巡回場所を増やす	日程や場所をもっと知らせる	停車時間を長くする	本の貸出期間を長くする	大人向け文芸書を増やす	趣味・実用書を増やす	児童書や絵本を増やす	その他	無回答
	全体	1196	381	776	127	81	89	193	98	134	139
地区	河北	347	86	216	37	22	27	60	24	40	43
	河南	171	61	111	17	14	9	29	16	20	20
	盛南	165	53	115	17	13	19	22	15	16	12
	厨川	270	102	183	30	20	18	42	21	35	29
	都南	201	59	127	22	9	15	34	21	21	27
	玉山	42	20	24	4	3	1	6	1	2	8
性別	男	547	154	347	64	32	36	94	43	73	65
	女	649	227	429	63	49	53	99	55	61	74
年齢	18～19歳	18	6	13	1	4	1	7	5	0	0
	20～29歳	98	35	79	10	3	6	10	13	5	5
	30～39歳	137	47	110	18	9	11	21	19	7	6
	40～49歳	198	77	146	20	15	18	24	24	18	8
	50～59歳	197	71	133	22	12	17	28	14	30	13
	60～69歳	265	72	163	29	15	23	57	13	30	40
	70歳以上	283	73	132	27	23	13	46	10	44	67

【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	図書館以外の公共施設でも、予約した本の受け取りや返却ができるようにする	予約した本の受け取りや返却ができるようにする	商店街やデパートなどで、学校図書館の蔵書を充実させる	公民館や地区活動センターの図書室の蔵書を充実させる	本や雑誌を読めるようにする	庁舎や支所・出張所の待合などで郵送（実費負担）による貸し出しを行う。	図書館に行くことができない要介護の高齢者や体が不自由な方などを対象として	分からない	館外のサービスは知らない	その他	無回答
	全体	1196	395	267	219	161	216	198	221	128	72	57	
地区	河北	347	113	75	72	45	48	58	63	36	30	15	
	河南	171	65	48	21	17	28	31	34	15	8	9	
	盛南	165	49	42	36	23	31	23	31	21	8	4	
	厨川	270	93	54	65	37	57	44	52	24	18	14	
	都南	201	58	39	21	31	46	37	37	27	7	9	
	玉山	42	17	9	4	8	6	5	4	5	1	6	
性別	男	547	171	121	111	59	96	86	103	78	33	23	
	女	649	224	146	108	102	120	112	118	50	39	34	
年齢	18～19歳	18	8	4	4	4	3	5	3	0	0	0	
	20～29歳	98	47	29	19	20	17	20	9	9	2	2	
	30～39歳	137	55	43	12	16	18	25	16	23	7	2	
	40～49歳	198	80	47	29	53	41	36	32	14	8	3	
	50～59歳	197	75	61	32	28	38	34	35	22	17	1	
	60～69歳	265	80	48	52	25	54	40	57	29	21	15	
	70歳以上	283	50	35	71	15	45	38	69	31	17	34	

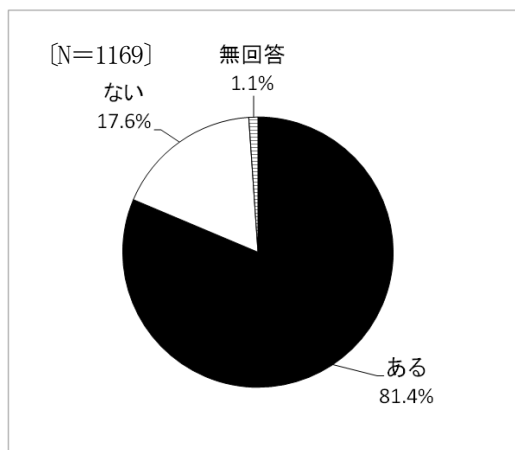
《テーマ2 盛岡の食と農について》

問9 あなたは「盛岡産」または盛岡市内の地名が産地明示された農畜産物を見かけたことがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1 ある

2 ない

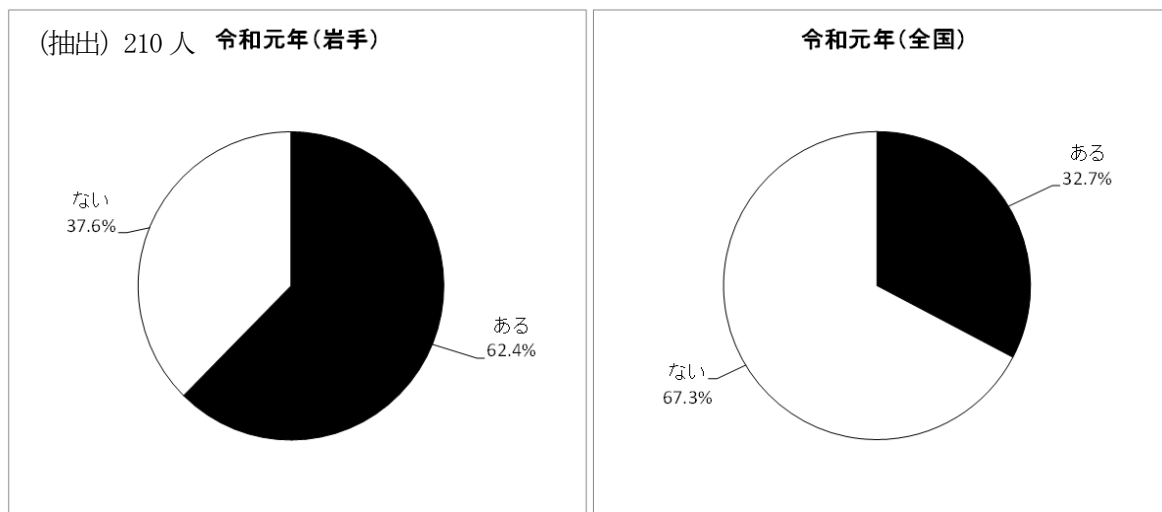
【全体】



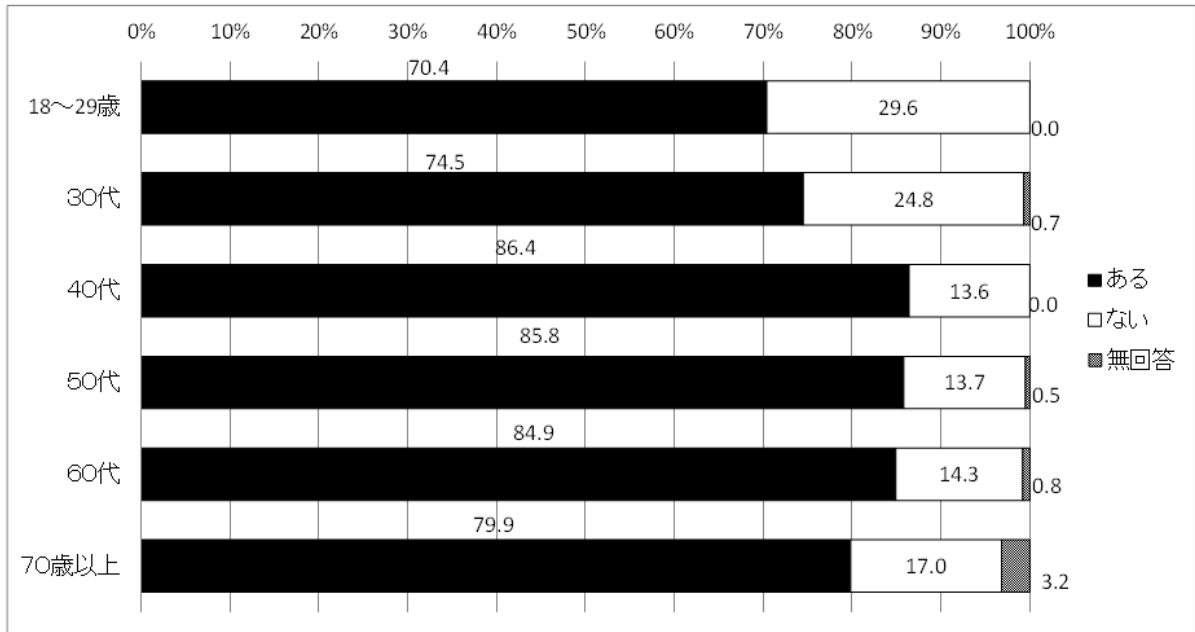
「ある」の割合が81.4%と高い結果となった。全国の消費者を対象とした同様の調査（※）では、全国の消費者の「ある」の割合は、32.7%、このうち岩手県全域の消費者を抽出した「ある」は62.4%にとどまっており、比較すると本調査における市民の認知度が高い結果となった。

【参考】

※もりおかの食と農バリューアップ推進戦略効果測定調査（盛岡産農畜産物の認知度測定等に係る消費者調査）（盛岡市農林部，調査期間：令和元年7月22日～7月30日，対象者数：2,940人）



【年代別】



年代が進むにつれて「ある」の回答割合が高くなり、40代（86.4%）、50代（85.8%）、60代（84.9%）の年代が認知度が高いピークとなっている。

【全体を通じて】

盛岡市民を対象とした本調査の「ある」の回答割合が8割超となり、全国調査と比較しかなり高い割合となっている。中でも40代から60代の認知度が高いことが分かった

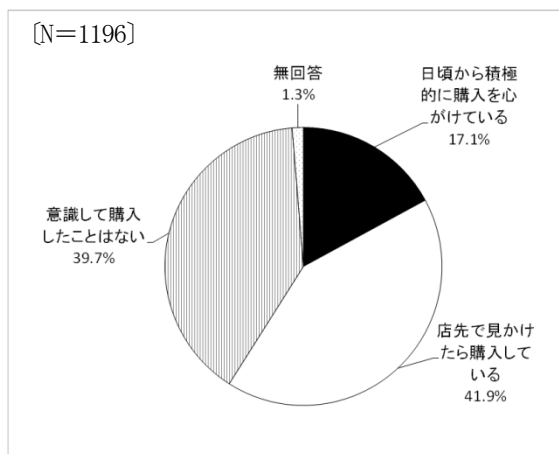
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	ある	ない	無回答
	全体	1196	973	210	13
地区	河北	347	281	62	4
	河南	171	143	25	3
	盛南	165	138	27	0
	厨川	270	217	51	2
	都南	201	163	36	2
	玉山	42	31	9	2
性別	男	547	413	130	4
	女	649	560	80	9
年齢	18~19歳	18	11	7	0
	20~29歳	98	69	29	0
	30~39歳	137	102	34	1
	40~49歳	198	171	27	0
	50~59歳	197	169	27	1
	60~69歳	265	225	38	2
	70歳以上	283	226	48	9

問 10 あなたは盛岡産農畜産物を意識して購入していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 日頃から積極的に購入を心がけている 2 店先で見かけたら購入している
3 意識して購入したことはない

【全体】



「店先で見かけたら購入している (41.9%)」が一番高い結果となった。「日頃から積極的に購入を心がけている (17.1%)」「店先で見かけたら購入している (41.9%)」と意識購入に積極的な回答の合計が 59.0% となった。同様の調査を行った平成 30 年度まちづくり評価アンケート (※) では、「日頃から購入を心がけている」「店先にあれば購入している」の回答の合計が 60.9% となっており、比較すると本調査では 1.9 ポイント低い、あまり変わらない傾向の結果となった。

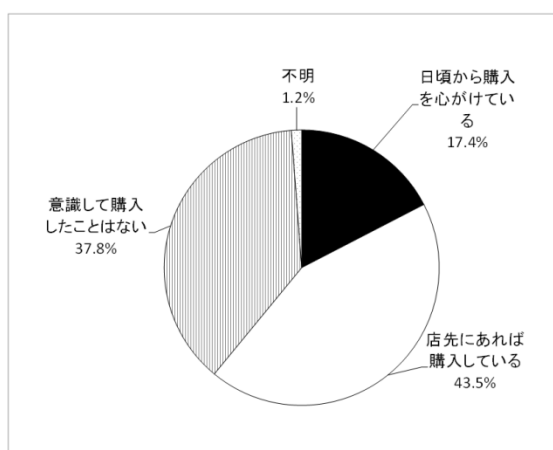
【参考】

※平成 30 年度まちづくり評価アンケート

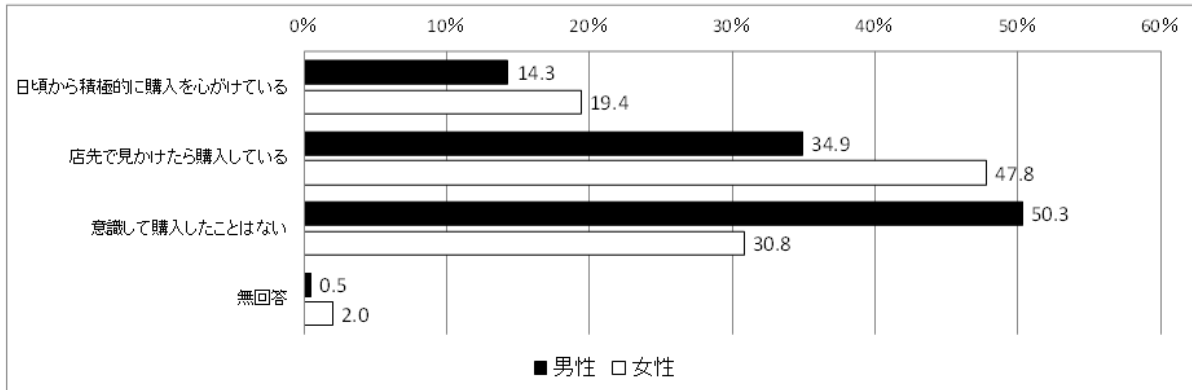
(盛岡市市長公室企画調整課, 調査期間: 平成 30 年 11 月 27 日~12 月 21 日)

問 23 盛岡産農畜産物の購入状況について

あなたは、農畜産物を購入するときに「盛岡産」であることを意識して購入していますか。(回答数 1, 296)

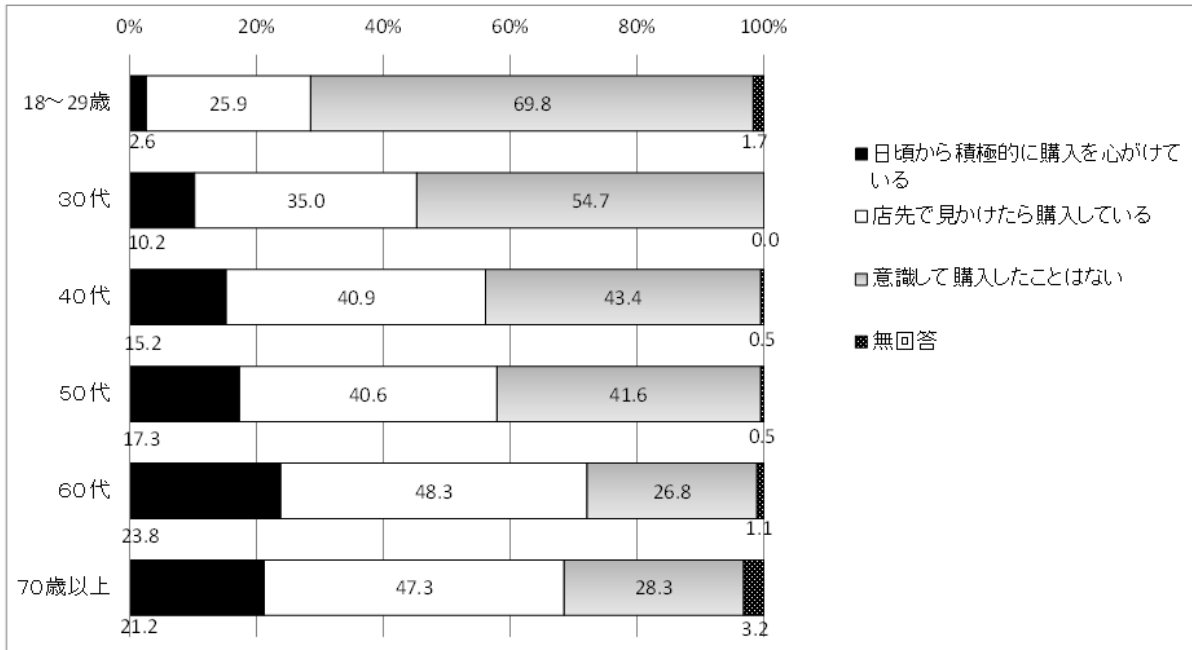


【性別】



「日頃から積極的に購入を心がけている」と「店先で見かけたら購入している」を合わせた回答割合が女性は67, 2%に対して、男性は49.2%と、18.0ポイント低くなっており、意識購入の積極性に関きがあり、男女の差は炊事支度や購入機会の頻度の違いによる影響が考えられる。

【年代別】



「日頃から積極的に購入を心がけている」「店先で見かけたら購入している」を合わせた回答割合は、18~29歳 (28.5%) が最も低く、年代が進むにつれて高くなり、40代からは全体の5割以上となる。特に60代 (72.1%)・70代以上 (68.5%) の割合が高く、シニア世代が盛岡産農畜産物を意識して購入していることがうかがえる。

【全体を通じて】

「店先で見かけたら購入している」が一番高いことから、店頭で「盛岡産」の表示があることで、商品選択の動機付けになることがうかがえ、「盛岡産」を明示していくことで、地産地消の推進につながるものと考えられる。

積極的な盛岡産の購入意向について、女性が高いとともに、高齢者が高かつ若年層が低いという実態から、炊事等の準備による購入頻度、産地を吟味する時間的余裕等ライフスタイルによる影響も考えられる。

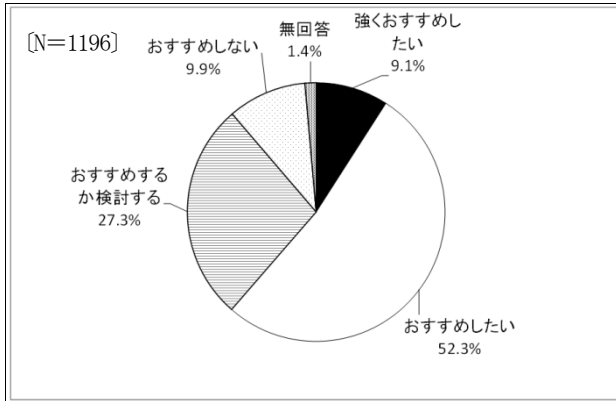
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	日頃から積極的に購入を心がけている	店先で見かけたら購入している	意識して購入したことはない	無回答
	全体	1196	204	501	475	16
地区	河北	347	62	147	134	4
	河南	171	27	81	60	3
	盛南	165	28	65	72	0
	厨川	270	43	111	111	5
	都南	201	40	80	79	2
	玉山	42	4	17	19	2
性別	男	547	78	191	275	3
	女	649	126	310	200	13
年齢	18～19 歳	18	0	2	16	0
	20～29 歳	98	3	28	65	2
	30～39 歳	137	14	48	75	0
	40～49 歳	198	30	81	86	1
	50～59 歳	197	34	80	82	1
	60～69 歳	265	63	128	71	3
	70 歳以上	283	60	134	80	9

問 11 あなたは盛岡産農畜産物を家族・友人・知人に今後おすすめしますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

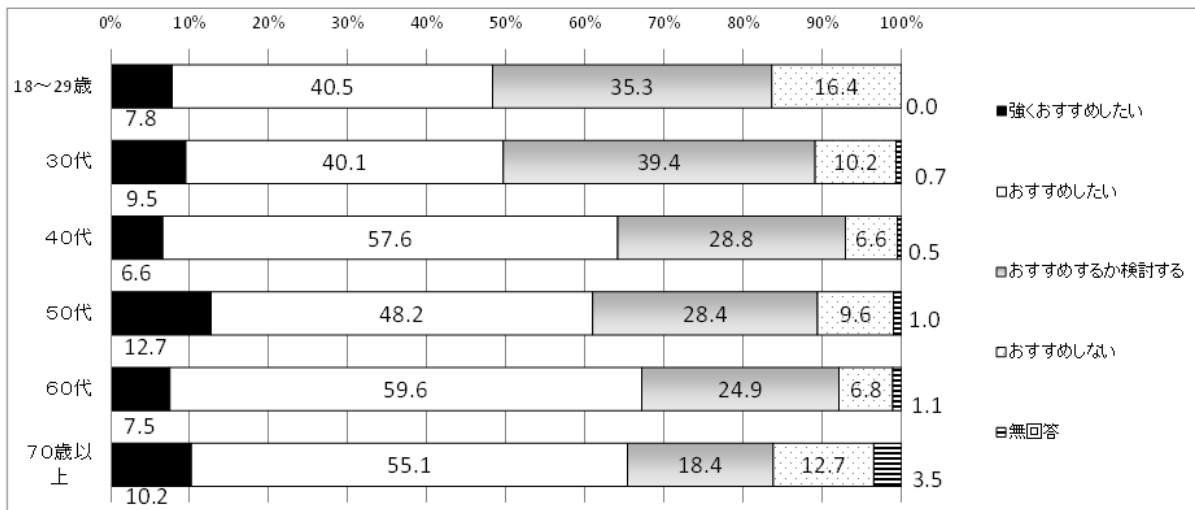
- | | |
|---------------|-----------|
| 1 強くおすすめしたい | 2 おすすめしたい |
| 3 おすすめするか検討する | 4 おすすめしない |

【全体】



「おすすめしたい (52.3%)」の割合が一番高く、次に「おすすめするか検討する (27.3%)」となっている。「強くおすすめしたい」と「おすすめしたい」と合わせると、61.4%となっており、6割以上に盛岡産農畜産物の推奨意向がみられる。

【年代別】



「強くおすすめしたい」と「おすすめしたい」を合わせた推奨意向の割合は、18歳～29歳 (48.3%) が最も低い。40代以上の年代はいずれも推奨意向が6割を超える。

【全体を通じて】

盛岡産農畜産物の推奨意向が、これまでの経験による品質に対する評価か、地元に対する愛着によるものか本質問のみでは判断できないが、6割以上が推奨意向を持つ結果となった。

本市で開催した食と農の魅力発信イベント (※) の来場者アンケートにおける同質問では、「強くおすすめしたい」「おすすめしたい」の回答計は約9割にも及び、イベント等においてその魅力や価値を体感することにより、推奨意向がさらに高くなることがうかがえる。

継続的に盛岡の食と農の魅力や価値の浸透を図る企画を行っていくことが、理解促進と愛着の醸成につながるものと考えられる。

※①もりおかの食と農のバリューアップ推進事業「盛岡美食の夜」

(平成30年11月20日開催・盛岡市農林部・138名回答)

※②もりおかの食と農バリューアップ推進事業「盛岡美食の夜2019」

(令和元年11月4日開催・盛岡市農林部・120名回答)

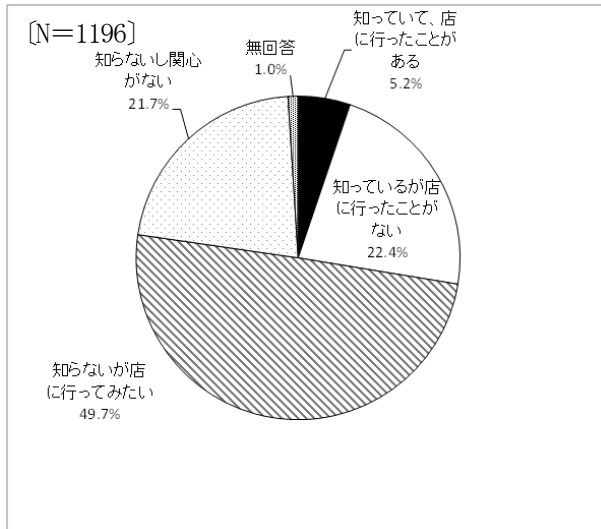
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	強くおすすめしたい	おすすめしたい	おすすめするか検討する	おすすめしない	無回答
	全体	1196	109	625	326	119	17
地区	河北	347	35	173	103	31	5
	河南	171	13	90	42	22	4
	盛南	165	9	92	47	16	1
	厨川	270	21	144	73	28	4
	都南	201	27	104	50	19	1
	玉山	42	4	22	11	3	2
性別	男	547	47	270	159	67	4
	女	649	62	355	167	52	13
年齢	18～19歳	18	0	10	6	2	0
	20～29歳	98	9	37	35	17	0
	30～39歳	137	13	55	54	14	1
	40～49歳	198	13	114	57	13	1
	50～59歳	197	25	95	56	19	2
	60～69歳	265	20	158	66	18	3
	70歳以上	283	29	156	52	36	10

問 12 あなたは盛岡の特産農畜産物を活用した創作メニューを提供する飲食店「盛岡の美味しいもんアンバサダー」を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

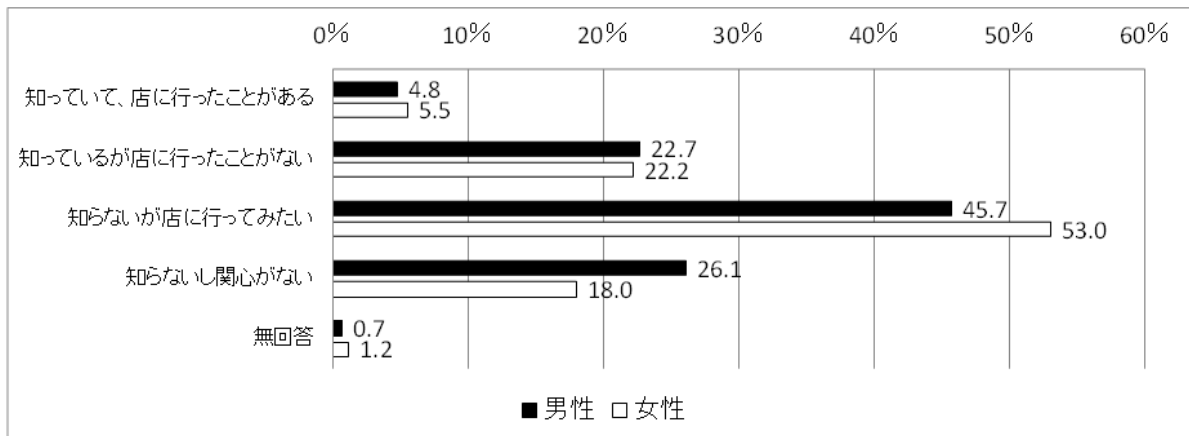
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 知っていて、店に行ったことがある | 2 知っているが店に行ったことがない |
| 3 知らないが店に行ってみいたい | 4 知らないし関心がない |

【全体】



「知らないが行ってみいたい (49.7%)」が一番高く、「知っていて、店に行ったことがある (5.2%)」と「知っているが店に行ったことがない (22.4%)」を合わせた「盛岡の美味しいもんアンバサダー」制度を認知している割合は27.9%にとどまる。しかしながら、全体の5割弱が「知らないが店に行ってみいたい」と回答しており、現状認知していなくても、飲食店において提供される特産農畜産物を使った創作メニューに興味関心を持っていることがうかがえる。

【性別】



「知っていて、店に行ったことがある」と「知っているが店に行ったことがない」の男女の回答の差はほとんどないが、「知らないが店に行ってみいたい」は女性が7.3ポイント高く、逆に「知らないし関心がない」は男性が8.1ポイント高く、女性の方が興味関心を持っていることがうかがえる。

【全体を通じて】

特産農畜産物を活用した創作メニューを提供する飲食店を支援する「盛岡の美味しいもんアンバサダー」の認定制度（平成29年2月創設）は、創設から3年目となるが、認知度は3割弱にとどまっている。

しかしながら、「知っているが店に行ったことがない（認知あり・経験なし）」と「知らないが店に行ってみいたい（認知なし・関心あり）」の計が72.1%に及ぶことから、制度認知とともに店舗へ足を運ぶ動機付けとなる取組の強化と、多くの人が享受できるよう認定店舗を増やす取組を並行して行うことで、飲食店が多く立ち並ぶ当市のメリットを活かした食と農の連携事業としてさらに拡がりが見込める。

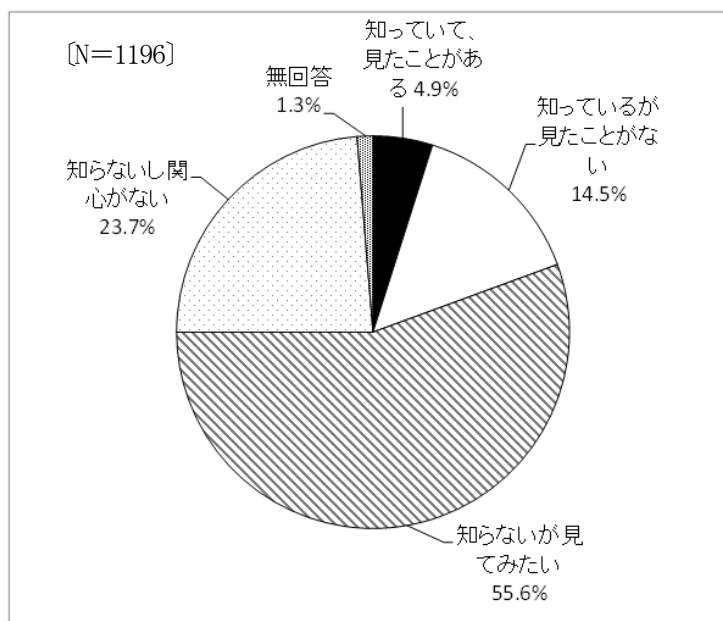
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		対象者数	知っていて、店に行ったことがある	知っているが店に行ったことがない	知らないが店に行ってみた	知らないし関心がない	無回答
	全体	1196	62	268	594	260	12
地区	河北	347	16	73	174	81	3
	河南	171	10	33	87	38	3
	盛南	165	10	35	86	33	1
	厨川	270	13	68	130	56	3
	都南	201	10	46	100	45	0
	玉山	42	3	13	17	7	2
性別	男	547	26	124	250	143	4
	女	649	36	144	344	117	8
年齢	18～19歳	18	0	3	10	5	0
	20～29歳	98	5	10	59	24	0
	30～39歳	137	5	30	66	36	0
	40～49歳	198	9	39	119	31	0
	50～59歳	197	9	49	102	37	0
	60～69歳	265	15	64	124	59	3
	70歳以上	283	19	73	114	68	9

問 13 あなたは盛岡の食と農の魅力発信ウェブサイト「美食王国もりおか」
 (<https://oishii-morioka.com/>) を知っていますか。当てはまるもの 1つ に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 知っていて、見たことがある | 2 知っているが見たことがない |
| 3 知らないが見てみたい | 4 知らないし関心がない |

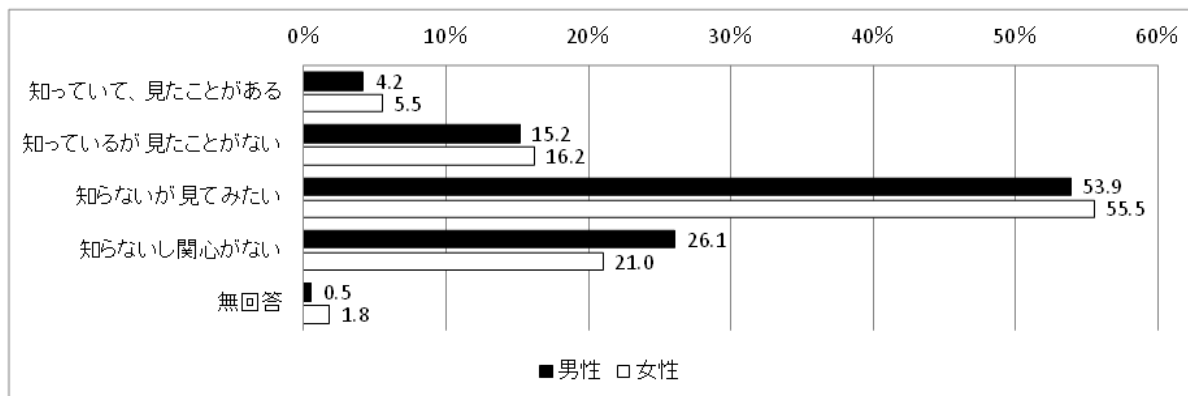
【全体】



「知らないが見てみたい (55.6%)」が一番高く、「知っていて、見たことがある (4.9%)」と「知っているが見たことがない (14.5%)」を合わせたウェブサイトを認知している割合が 19.4%にとどまる。

しかしながら、全体の5割以上が「知らないが見てみたい」と回答していることから、ウェブサイトを認知しアクセスしてもらうため情報の接点を増やす取組が必要である。

【性別】



「知らないし関心がない」が男性のほうが5.1ポイント高く、他項目は女性のほうが各々高いことから、女性のほうが興味関心を高く持っている。

【全体を通じて】

盛岡の食と農の魅力発信ウェブサイト『美食王国もりおか』は平成30年12月に開設したサイトであり、開設から9カ月目で実施した本調査の認知度は2割弱にとどまる。しかしながら、「知っているが見たことがない (認知あり・経験なし)」「知らないが見てみたい (認知なし・関心あり)」が計70.1%もいることから、サイト認知とともにアクセスする動機付けを与えるような取組の強化により、サイトにより多くの人を誘導できれば食と農の魅力を効果的に伝えるツールとして有効と考えられる。

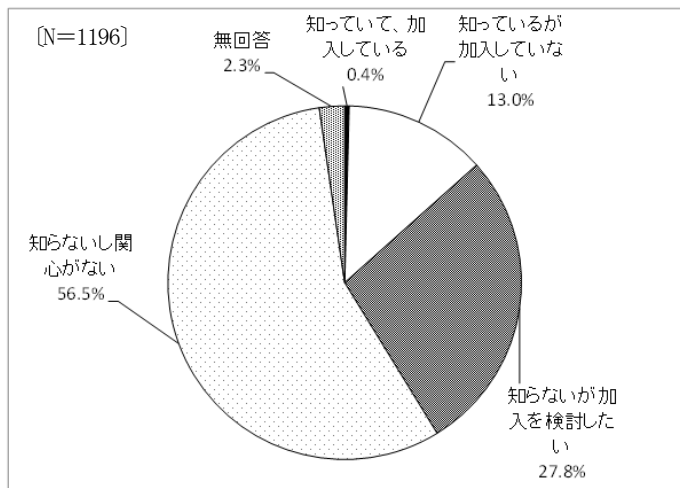
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	知っていて、見たことがある	知っているが見たことがない	知らないが見てみたい	知らないし関心がない	無回答
	全体	1196	59	174	665	283	15
地区	河北	347	17	47	199	80	4
	河南	171	5	25	98	39	4
	盛南	165	8	23	95	39	0
	尉川	270	12	47	143	65	3
	都南	201	15	24	111	49	2
	玉山	42	2	8	19	11	2
性別	男	547	21	72	307	144	3
	女	649	38	102	358	139	12
年齢	18～19歳	18	0	1	10	7	0
	20～29歳	98	2	12	53	31	0
	30～39歳	137	9	23	69	36	0
	40～49歳	198	9	22	134	33	0
	50～59歳	197	9	28	125	35	0
	60～69歳	265	13	44	144	59	5
	70歳以上	283	17	44	130	82	10

問 14 あなたは盛岡の食と農を応援するファン組織「美食王国もりおかファンクラブ」を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 知っていて、加入している | 2 知っているが加入していない |
| 3 知らないが加入を検討したい | 4 知らないし関心がない |

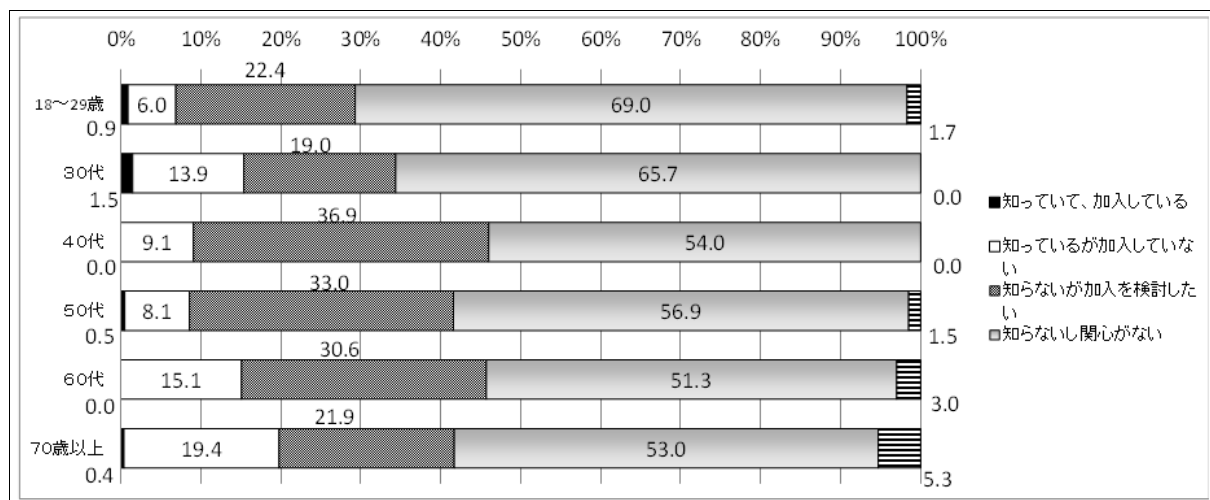
【全体】



「知らないし関心がない (56.5%)」が一番高く、「知っていて、加入している (0.4%)」と「知っているが加入していない (13.0%)」を合わせた制度自体を認知している割合が 13.4% にとどまる。

一方で、全体の3割弱の 27.8%が「知らないが加入を検討したい」と回答していることから、ファンクラブ制度を認知してもらうための情報の接点を増やす取組が必要である。

【年代別】



「知らないが加入を検討したい」が高いのは40代 (36.9%) , 50代 (33%) , 60代 (30.6%) の順であり、現時点で認知していないものの関心が高いのは40代から60代となっている。

「知っているが加入していない」は70歳以上 (19.4%) が一番高く、ファンクラブ会員への情報発信を、メールマガジンを中心に行っていることから、高齢者のネット環境が整わないケース等認知していても加入に至らない可能性が考えられる。「知らないし関心がない」は、10代から30代が高く、若い年代ほど関心が低い。

【全体を通じて】

「美食王国もりおかファンクラブ」は平成31年1月に発足したものであり、発足から8カ月目で実施した本調査では認知度が低い。しかしながら、「知っているが加入していない (認知あり・経験なし)」「知らないが加入を検討したい (認知なし・関心あり)」が計41.2%いることから、制度を認知してもらう情報の接点を増やすとともに、応援する機運を高める取組を並行して行うことで、新たなファン獲得につながる可能性が考えられる。

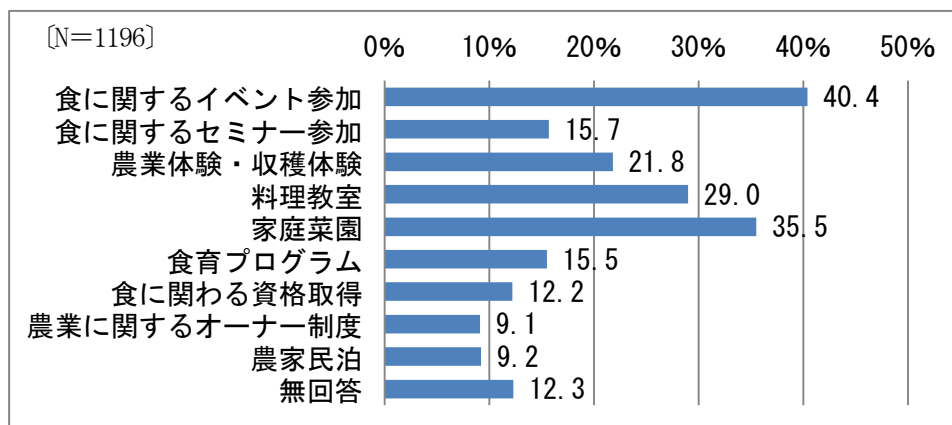
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	知っていて、 加入している	知っているが加入していない	知らないが加入を検討したい	知らないし関心がない	無回答
	全体	1196	5	155	333	675	28
地区	河北	347	2	51	98	189	7
	河南	171	1	17	41	104	8
	盛南	165	0	22	57	85	1
	厨川	270	1	41	69	153	6
	都南	201	1	21	61	115	3
	玉山	42	0	3	7	29	3
性別	男	547	3	64	154	317	9
	女	649	2	91	179	358	19
年齢	18～19歳	18	0	0	4	14	0
	20～29歳	98	1	7	22	66	2
	30～39歳	137	2	19	26	90	0
	40～49歳	198	0	18	73	107	0
	50～59歳	197	1	16	65	112	3
	60～69歳	265	0	40	81	136	8
	70歳以上	283	1	55	62	150	15

問15 あなたは、食・農業についてどのような体験に興味関心がありますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 食に関するイベント参加 | 2 食に関するセミナー参加 |
| 3 農業体験・収穫体験 | 4 料理教室 |
| 5 家庭菜園 | 6 食育プログラム |
| 7 食に関わる資格取得 | 8 農業に関するオーナー制度 |
| 9 農家民泊 | |

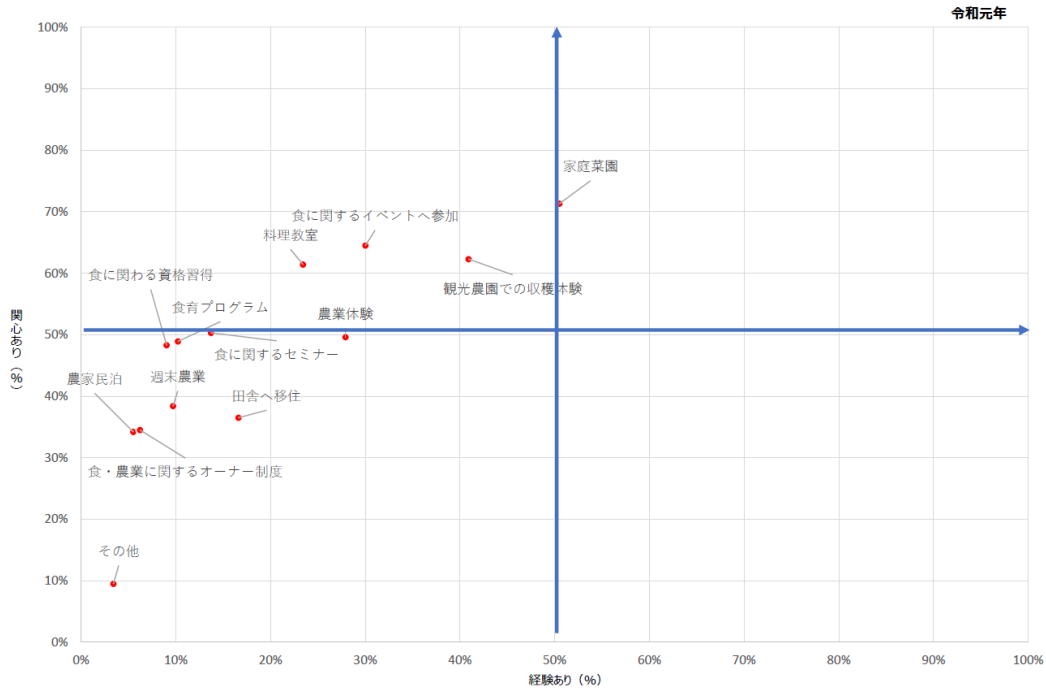
【全体】



1位が「食に関するイベント参加 (40.4%)」、2位が「家庭菜園 (35.5%)」、3位が「料理教室 (29.0%)」、4位が「農業体験・収穫体験 (21.8%)」となった。全国の消費者を対象とした同様の調査 (※) では、全国の結果及びそのうち岩手県内の消費者を抽出した結果ともに「家庭菜園」「食に関するイベント参加」「観光農園での収穫体験」「料理教室」の順となっており、上位を占める関心の高い体験は同様の傾向がみられる。

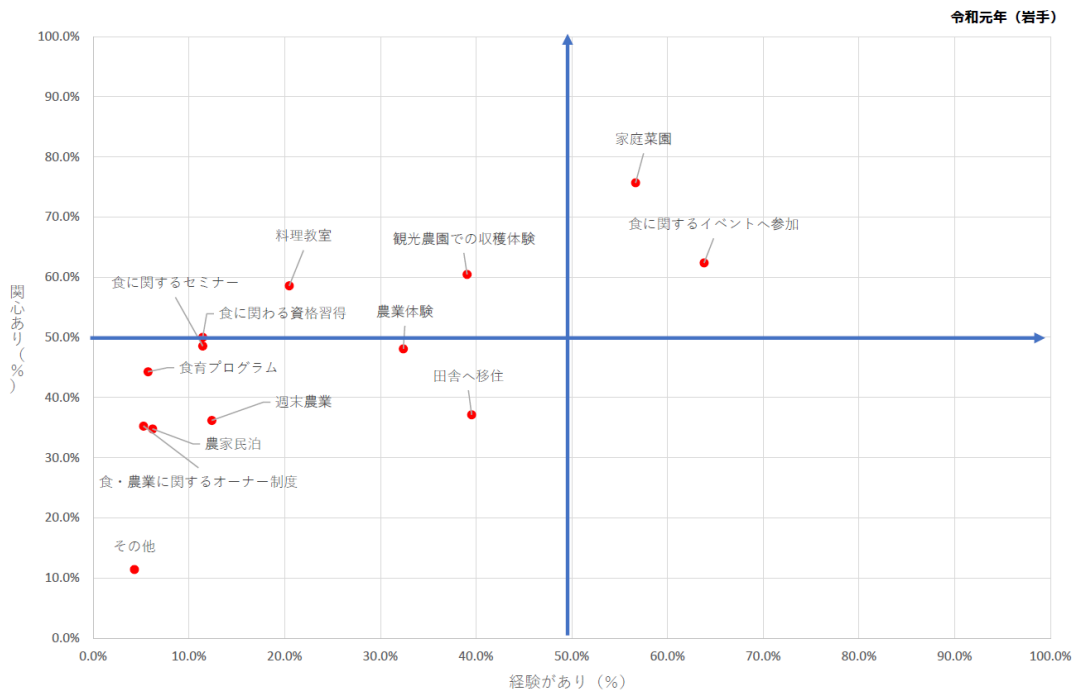
【参考①】

4. 食・農業についての経験／興味・関心 (1) 食・農業について関心があること/経験したことがあること



【参考②】

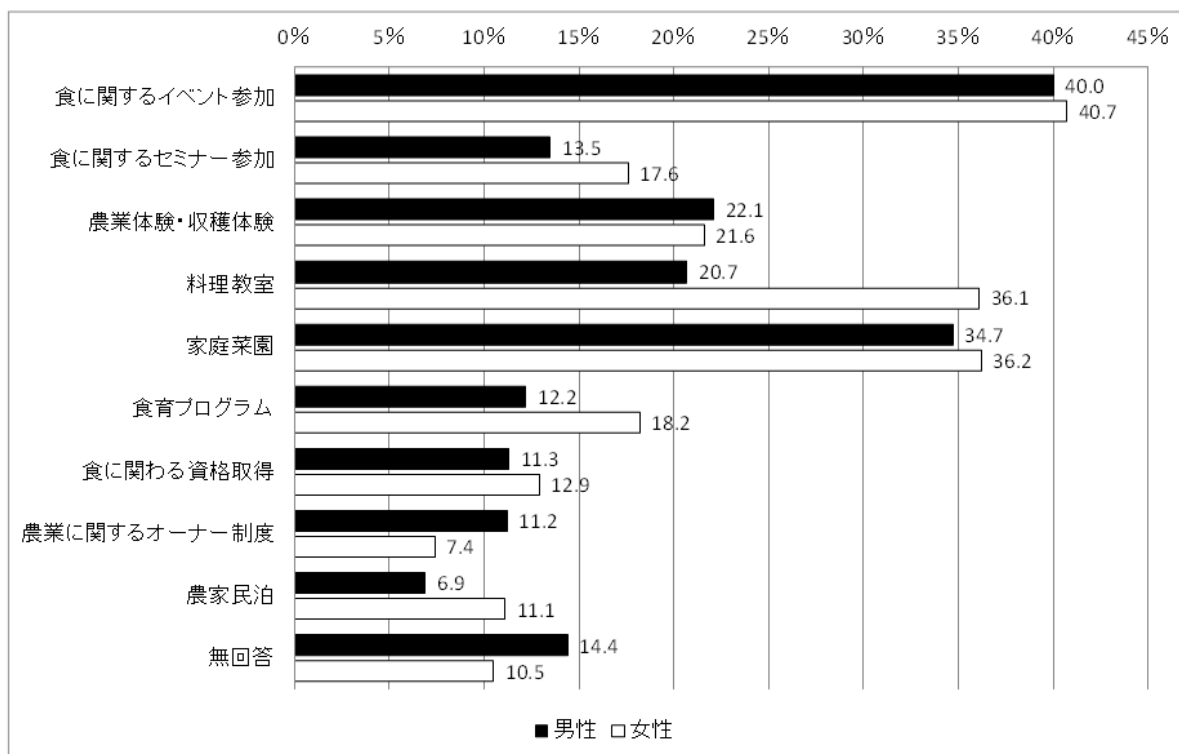
4. 食・農業についての経験／興味・関心 (1) 食・農業について関心があること/経験したことがあること



※もりおかの食と農バリューアップ推進戦略効果測定調査 (盛岡産農畜産物の認知度測定等に係る消費者調査)

(盛岡市農林部, 調査期間: 令和元年7月22日~7月30日, 対象地域及び対象者数: ①全国: 2,940人 ②岩手県: 210人)

【性別】



性別により興味関心の差が大きい体験は、「料理教室」が女性（36.1%）・男性（20.7%）で15.4ポイント差、「食育プログラム」が女性（18.2%）・男性（12.2%）で6.0ポイント差となっている。概ねどの体験も女性のほうが関心が高い傾向がみられるが、「農業に関するオーナー制度」は男性が3.8ポイント関心が高い。

【全体を通じて】

本調査及び全国調査において、興味関心が高い体験は同様の傾向が見られた。その中でも、年代別に興味関心が高い体験に違いがみられることから、盛岡の食と農の理解促進を目的にした事業を展開する際には、メインターゲットを定め興味関心に沿った企画の実施により、ターゲット層により効果的に訴求すると考えられる。

【性別，年代別，地区別の回答数】

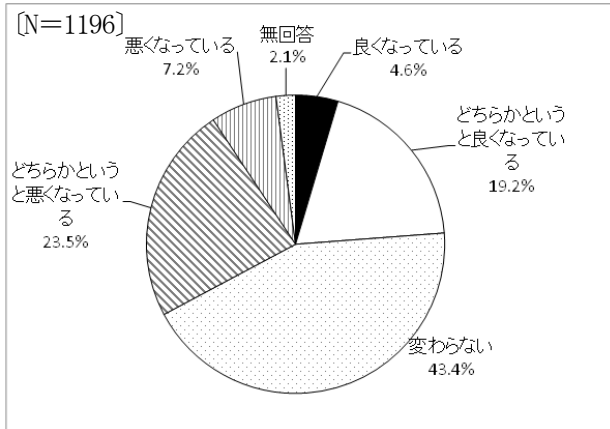
		対象者数	食に関するイベント参加	食に関するセミナー参加	農業体験・収穫体験	料理教室	家庭菜園	食育プログラム	食に関わる資格取得	農業に関するオーナー制度	農家民泊	無回答
	全体	1196	483	188	261	347	425	185	146	109	110	147
地区	河北	347	137	62	76	84	132	47	34	34	28	46
	河南	171	68	28	35	40	52	21	26	16	20	28
	盛南	165	74	26	39	52	55	32	25	15	16	12
	厨川	270	108	41	62	86	96	46	31	24	30	40
	都南	201	83	25	44	67	77	36	26	18	15	17
	玉山	42	13	6	5	18	13	3	4	2	1	4
性別	男	547	219	74	121	113	190	67	62	61	38	79
	女	649	264	114	140	234	235	118	84	48	72	68
年齢	18～19歳	18	8	0	1	11	3	2	6	0	0	1
	20～29歳	98	42	15	34	42	38	22	27	7	11	1
	30～39歳	137	71	17	42	42	46	40	21	9	16	9
	40～49歳	198	83	26	61	61	64	41	34	30	29	14
	50～59歳	197	97	39	43	59	62	25	29	21	19	17
	60～69歳	265	103	46	45	71	104	40	16	24	22	39
	70歳以上	283	79	45	35	61	108	15	13	18	13	66

《テーマ3 環境意識について》

問16 あなたは、10年前に比べて大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動など、盛岡の生活環境はどのように変わったと思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 良くなっている | 2 どちらかというと良くなっている |
| 3 変わらない | 4 どちらかというと悪くなっている |
| 5 悪くなっている | |

【全体】



「変わらない」が最も高く43.4%となった。「良くなっている」、「どちらかというと良くなっている」は、合計で23.8%であった。一方、「悪くなっている」、「どちらかというと悪くなっている」の合計は30.7%であり、「(どちらかという)良くなっている」より6.9ポイント高くなった。

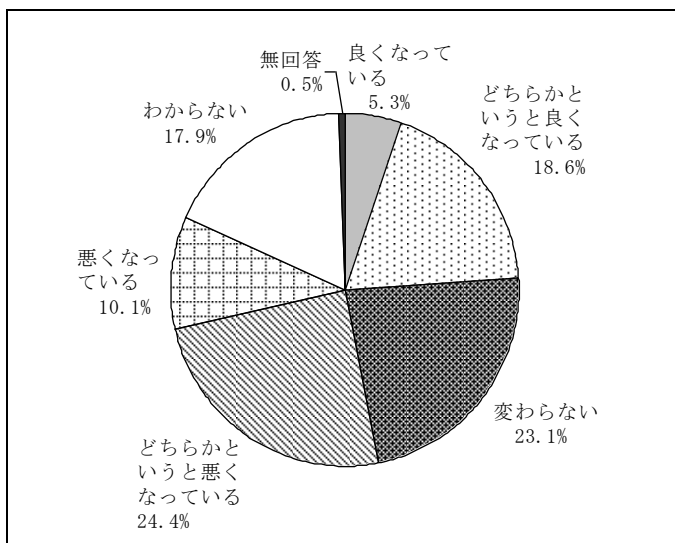
10年前に実施した同アンケートと比較すると、「(どちらかという)良くなっている」の割合はほぼ同じだが、「(どちらかという)悪くなっている」は34.5%であり、今回の方が良い結果となった。

盛岡市環境基本計画に基づき「健康で安全に生活できるまち」を目指し、交通・産業活動等に起因する環境負荷を低減するために、法令に基づき適切な監視や指導を行ってきたことが要因と考えられる。

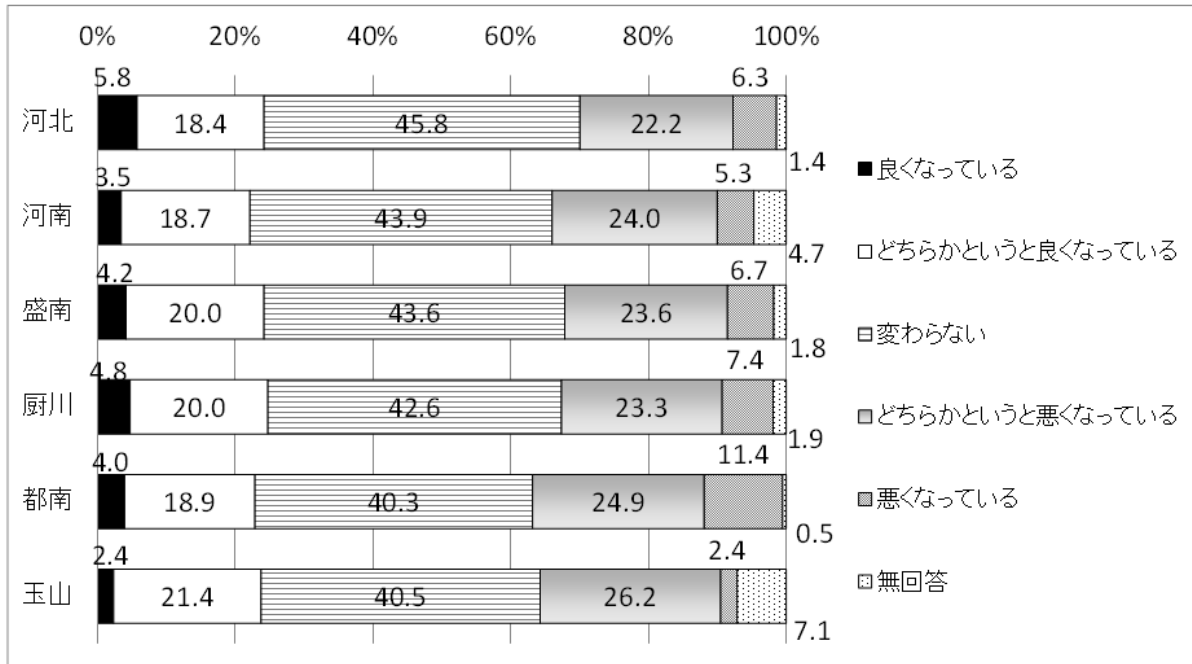
【参考】

※第18回（平成21年度）市民意識調査

（盛岡市市長公室広聴広報課，調査期間：平成21年7月9日～7月24日 有効回収数：2,418人）



【地区別】

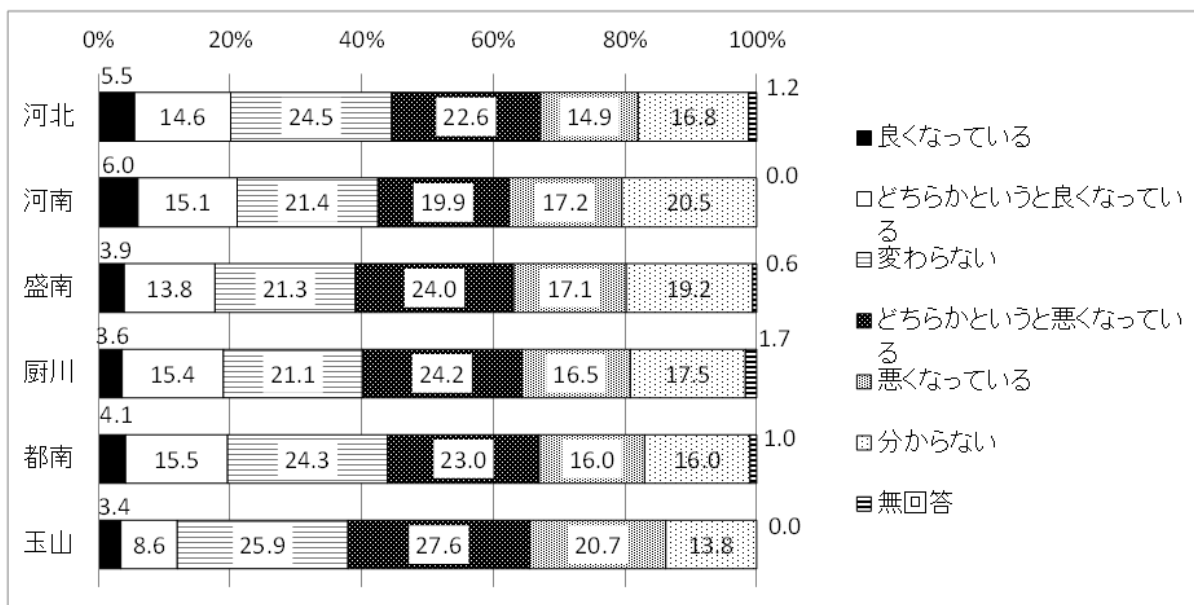


地区別の回答割合に大差はないが、都南地域が他の地域に比べ、「悪くなっている」の割合が 11.4%と高くなっている。公害苦情の近年の傾向として、自動車による騒音や大気汚染の相談件数は少ないが、野焼きによる臭気や事業場、工事現場からの騒音に対する苦情が増えている。実際の相談内容と今回の地域別のアンケート結果から、もともと農地であった地域の宅地化が進み、生じてきた問題が一因と考えられる。

【参考】

※第 18 回（平成 21 年度）市民意識調査

（盛岡市市長公室広聴広報課，調査期間：平成 21 年 7 月 9 日～7 月 24 日 有効回収数：2,418 人）



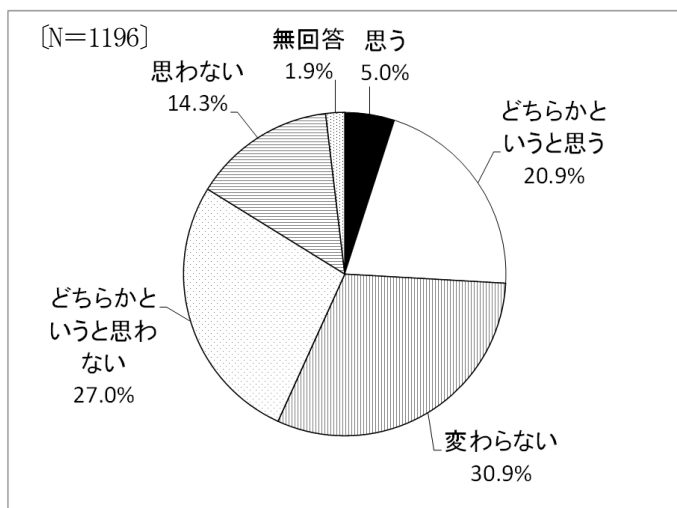
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		対象者数	良くなっている	どちらかというと良くなっている	変わらない	どちらかというと悪くなっている	悪くなっている	無回答
	全体	1,196	55	230	519	281	86	25
地区	河北	347	20	64	159	77	22	5
	河南	171	6	32	75	41	9	8
	盛南	165	7	33	72	39	11	3
	厨川	270	13	54	115	63	20	5
	都南	201	8	38	81	50	23	1
	玉山	42	1	9	17	11	1	3
性別	男	547	30	103	231	130	46	7
	女	649	25	127	288	151	40	18
年齢	18～19歳	18	0	4	8	4	2	0
	20～29歳	98	2	14	55	21	5	1
	30～39歳	137	10	18	69	29	8	3
	40～49歳	198	5	31	96	52	13	1
	50～59歳	197	9	38	89	41	18	2
	60～69歳	265	18	54	109	62	16	6
	70歳以上	283	11	71	93	72	24	12

問17 あなたは、10年前に比べて森林や農地などの自然環境が保全されたり、生物の多様性が確保されるなど、自然との共生が図られていると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------|----------------|
| 1 思う | 2 どちらかというと思う |
| 3 変わらない | 4 どちらかというと思わない |
| 5 思わない | |

【全体】



「思う」、「どちらかというと思う」の割合は、合計で 25.9%であった。一方、「思わない」、「どちらかというと思わない」の合計は 41.3%であり、「(どちらかという) 思う」より 15.4 ポイント高くなった。

しかし、10年前に実施した同アンケートと比較すると、「(どちらかという) 思う」と回答した人の割合は 19.4%であり今回の方が 6.5 ポイント高くなった。

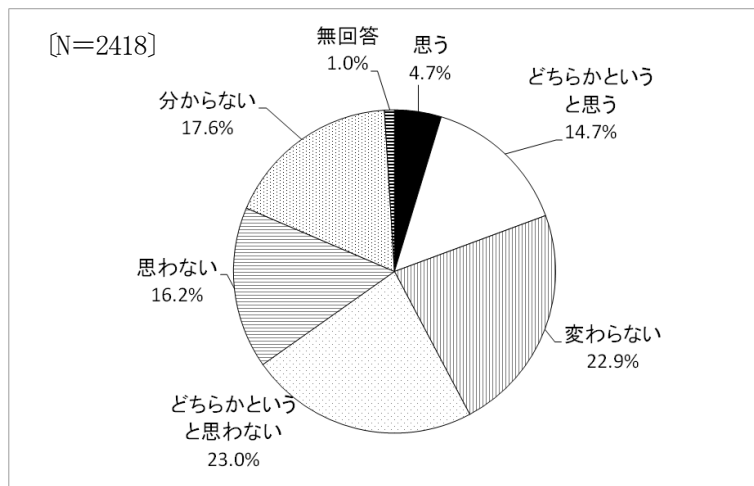
盛岡市環境基本計画の中で「生物の多様性を育む自然豊かなまち」、「快適で心豊かに暮らせるまち」を目指して、自然環境の保全や身近な自然とふれあう機会の促進を図ってきた成果があったものとする。

しかしながら、まだ、「(どちらかという) 思わない」の割合が、「(どちらかという) 思う」を上回っている状態であることから、さらなる自然環境の保全や市民が自然とふれあう機会が増えるよう考えていく必要がある。

【参考】

※第 18 回 (平成 21 年度) 市民意識調査

(盛岡市市長公室広聴広報課, 調査期間: 平成 21 年 7 月 9 日～7 月 24 日 有効回収数: 2,418 人)



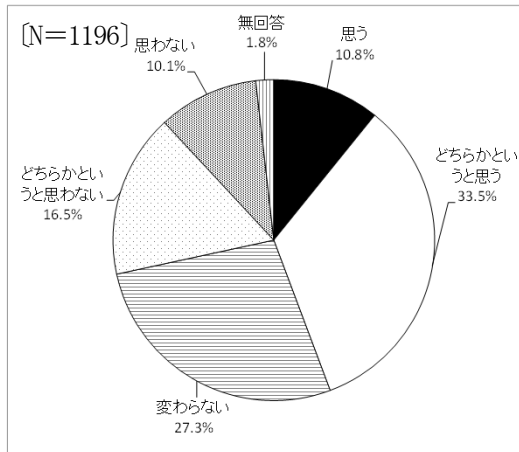
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		対象者数	思う	どちらかと思う	変わらない	どちらかと思わない	思わない	無回答
	全体	1196	60	250	369	323	171	23
地区	河北	347	18	77	107	89	52	4
	河南	171	8	36	55	42	23	7
	盛南	165	14	34	49	44	23	1
	厨川	270	7	58	83	78	37	7
	都南	201	9	38	64	59	30	1
	玉山	42	4	7	11	11	6	3
性別	男	547	29	93	180	157	81	7
	女	649	31	157	189	166	90	16
年齢	18～19歳	18	1	6	6	2	3	0
	20～29歳	98	4	17	36	28	12	1
	30～39歳	137	6	23	57	39	11	1
	40～49歳	198	8	38	77	46	27	2
	50～59歳	197	12	36	55	66	25	3
	60～69歳	265	10	55	76	75	42	7
	70歳以上	283	19	75	62	67	51	9

問18 あなたは、10年前に比べて緑や水辺、美しい景観のまちなみや眺望、歴史的・文化的遺産など、人にうるおいと安らぎをもたらす環境の保全が図られていると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------|----------------|
| 1 思う | 2 どちらかというと思う |
| 3 変わらない | 4 どちらかというと思わない |
| 5 思わない | |

【全体】

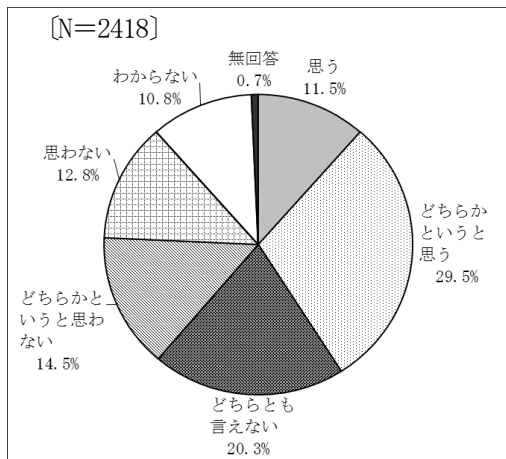


「思う」、「どちらかというと思う」の割合は、合計で44.3%であり、「思わない」、「どちらかというと思わない」の合計26.6%を17.7ポイント上回った。10年前の同アンケートと比較しても「(どちらかという) 思う」と回答した割合が4ポイント高い結果となった。

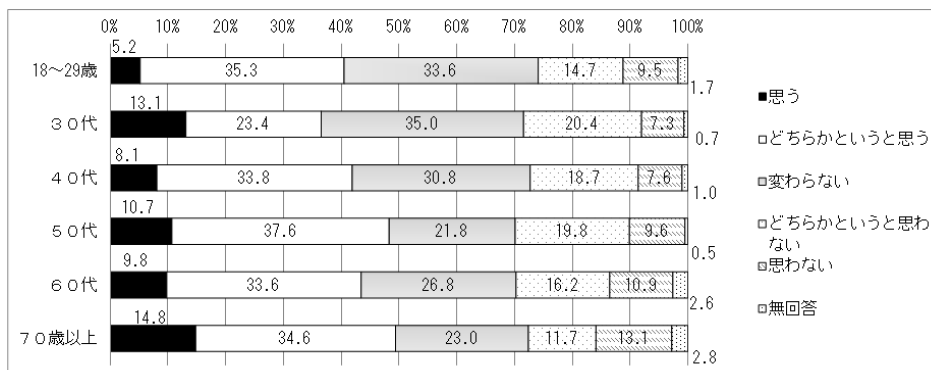
【参考】

※第18回（平成21年度）市民意識調査

（盛岡市市長公室広聴広報課、調査期間：平成21年7月9日～7月24日 有効回収数：2,418人）



【年代別】



年代が上がるにつれて、「どちらかというと思う」と回答した割合が高くなる傾向が見られた。

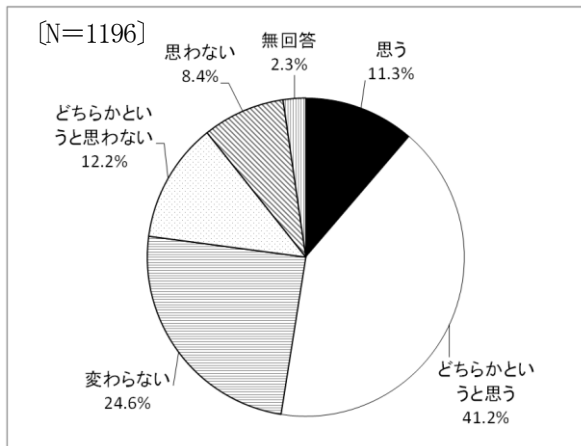
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	思う	どちらかというと思う	変わらない	どちらかというと思わない	思わない	無回答
	全体	1196	129	401	327	197	121	21
地区	河北	347	40	128	89	47	40	3
	河南	171	18	56	51	29	12	5
	盛南	165	21	55	43	28	16	2
	厨川	270	21	93	77	47	25	7
	都南	201	27	58	53	38	24	1
	玉山	42	2	11	14	8	4	3
性別	男	547	56	159	163	93	68	547
	女	649	73	242	164	104	53	649
年齢	18～19歳	18	1	5	8	3	1	0
	20～29歳	98	5	36	31	14	10	2
	30～39歳	137	18	32	48	28	10	1
	40～49歳	198	16	67	61	37	15	2
	50～59歳	197	21	74	43	39	19	1
	60～69歳	265	26	89	71	43	29	7
	70歳以上	283	42	98	65	33	37	8

問 19 あなたは、10年前に比べて環境への負荷を少なくするため、資源の循環的利用やエネルギーの有効利用が図られていると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

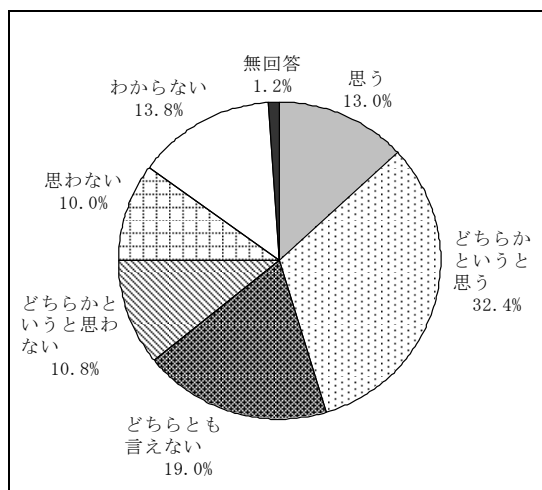
- | | |
|---------|----------------|
| 1 思う | 2 どちらかというと思う |
| 3 変わらない | 4 どちらかというと思わない |
| 5 思わない | |

【全体】



「思う」、「どちらかというと思う」の割合は、合計で 52.5%となり、半数を超え、「思わない」、「どちらかというと思わない」の合計 20.6%を大きく上回った。10年前の同アンケートよりも良い結果となっている。

ここ 10 年で、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーが大幅に増えたことや、省エネ製品が大幅に増加したことが要因と考えられる。また、市においても盛岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、公共施設への再生可能エネルギーの導入や環境イベントの実施等、エネルギーの有効利用と環境啓発に取り組んでおり、その効果があったと考えられる。



【参考】

※第 18 回（平成 21 年度）市民意識調査

（盛岡市市長公室広聴広報課，調査期間：平成 21 年 7 月 9 日～7 月 24 日 有効回収数：2,418 人）

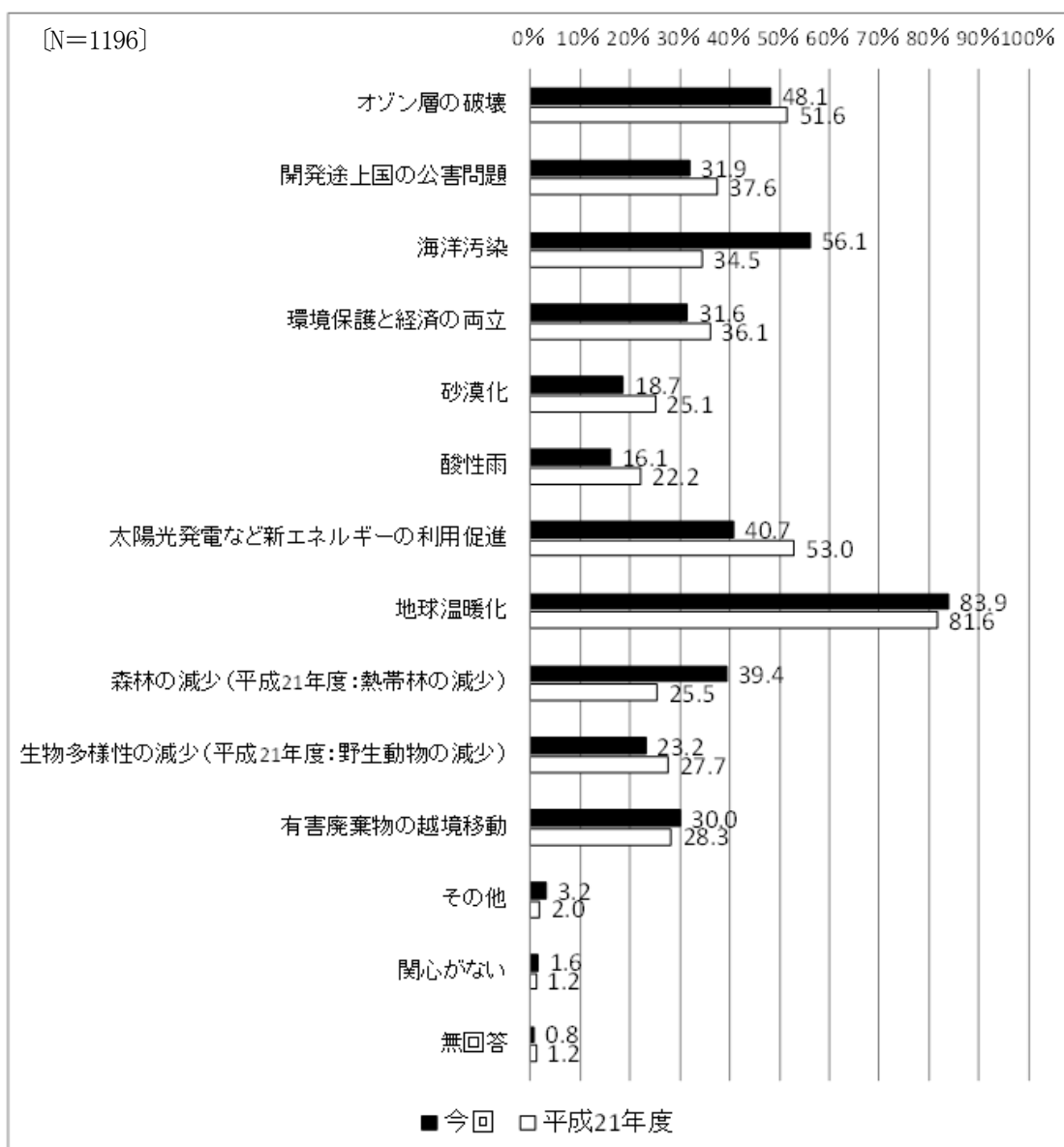
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		対象者数	思う	どちらかと思う	変わらない	どちらかと思わない	思わない	無回答
	全体	1196	135	493	294	146	101	27
地区	河北	347	48	133	86	41	33	6
	河南	171	17	72	41	21	14	6
	盛南	165	17	66	47	25	9	1
	尉川	270	30	121	65	28	18	8
	都南	201	18	83	48	27	23	2
	玉山	42	5	18	7	4	4	4
性別	男	547	61	218	141	66	53	8
	女	649	74	275	153	80	48	19
年齢	18～19歳	18	1	9	5	2	1	0
	20～29歳	98	6	40	34	5	10	3
	30～39歳	137	9	45	58	15	8	2
	40～49歳	198	21	86	47	29	14	1
	50～59歳	197	23	91	37	29	15	2
	60～69歳	265	34	101	56	32	31	11
	70歳以上	283	41	121	57	34	22	8

問 20 地球規模の環境問題で関心のあることは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 オゾン層の破壊 | 2 開発途上国の公害問題 |
| 3 海洋汚染 | 4 環境保護と経済の両立 |
| 5 砂漠化 | 6 酸性雨 |
| 7 太陽光発電など新エネルギーの利用促進 | 8 地球温暖化 |
| 9 森林の減少 | 10 生物多様性の減少 |
| 11 有害廃棄物の越境移動 | 12 その他 () |
| 13 関心がない | |

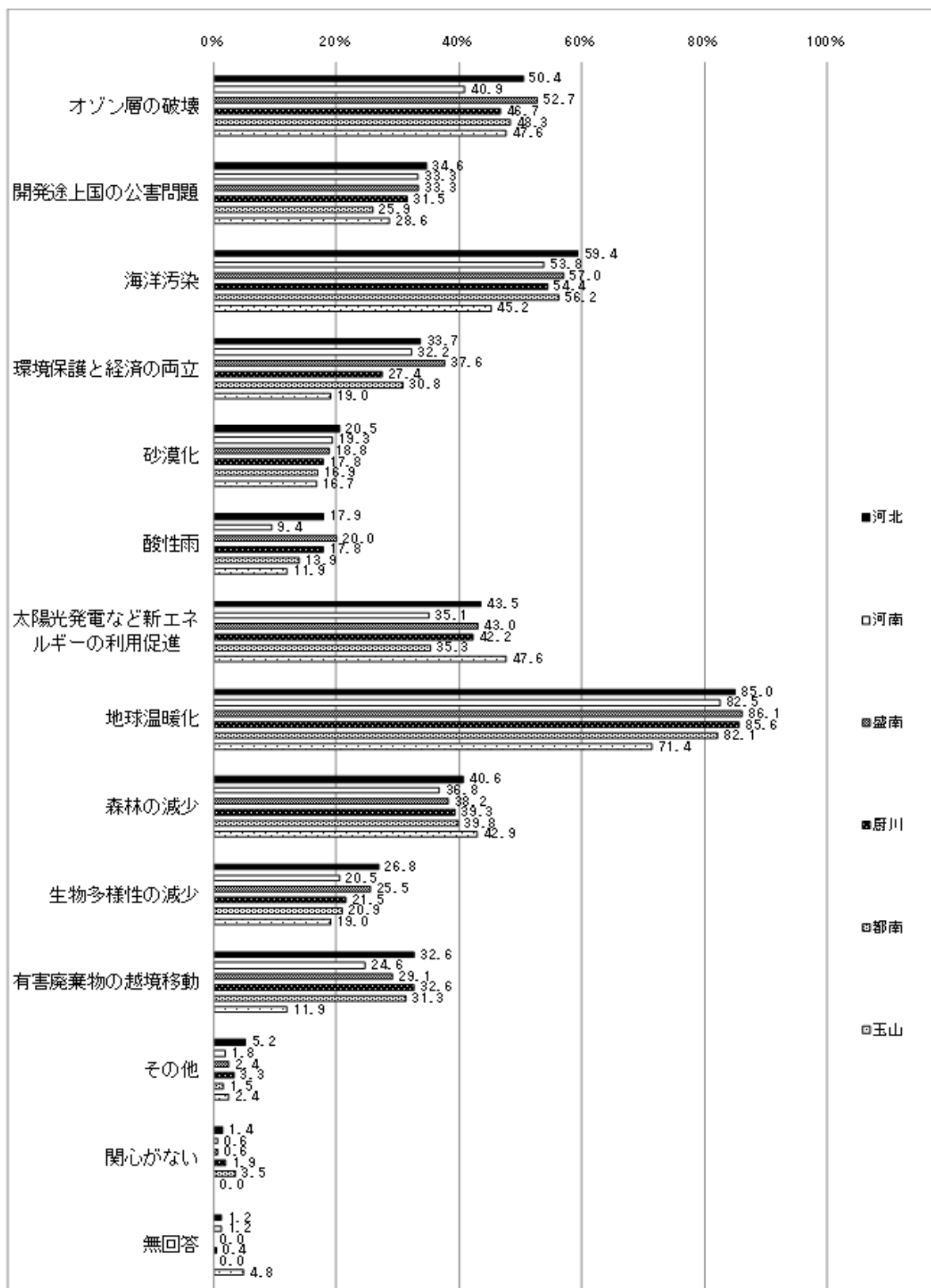
【全体】



最も関心が高かったのは、「地球温暖化」であり、83.9%と大多数の人が選択していた。10年前の同アンケートでも同様の結果で、長年にわたって最も問題視されている環境問題であることから、具体的な行動につながるような啓発を引き続き行っていきたい。

次に関心が高かったのが「海洋汚染」の56.1%であり、10年前の同アンケートの34.5%より21.6ポイント増加した。近年、マイクロプラスチック等の海洋ごみによる汚染が問題になっており、取り上げられる機会が増えているためと思われる。

【地区別】



玉山地域については回答数が少なく参考情報となるが、「太陽光発電など新エネルギー利用促進」について他の地域より5～10%程度関心が高かった。玉山地域は、エコタウン構想や平成25年度に設置されたメガソーラー等、再生可能エネルギーに関する事業が多く行われているため、他の地域よりも環境に関する啓発効果があったと思われる。

他の地域においても環境に関する具体的な事業や施設をPRしていくことにより、市全体として環境意識を高められるようにしたい。

※「その他」に記載された主なもの

- ・マイクロプラスチック問題
- ・原子力発電による汚染と環境破壊
- ・黄砂の飛来

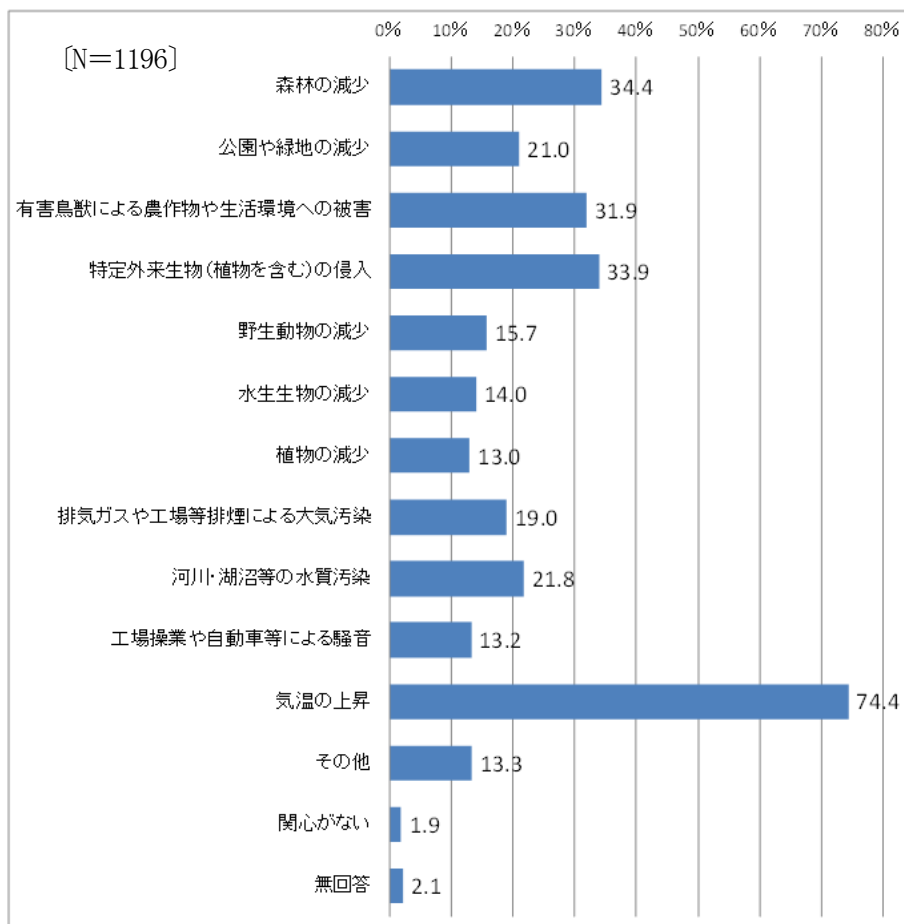
【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	オゾン層の破壊	開発途上国の公害問題	海洋汚染	環境保護と経済の両立	砂漠化	酸性雨	太陽光発電など新エネルギーの利用促進	地球温暖化	森林の減少	生物多様性の減少	有害廃棄物の越境移動	その他	関心がない	無回答
	全体	1196	575	381	671	378	224	192	487	1004	471	278	359	38	19	9
地区	河北	347	175	120	206	117	71	62	151	295	141	93	113	18	5	4
	河南	171	70	57	92	55	33	16	60	141	63	35	42	3	1	2
	盛南	165	87	55	94	62	31	33	71	142	63	42	48	4	1	0
	厨川	270	126	85	147	74	48	48	114	231	106	58	88	9	5	1
	都南	201	97	52	113	62	34	28	71	165	80	42	63	3	7	0
	玉山	42	20	12	19	8	7	5	20	30	18	8	5	1	0	2
性別	男	547	248	176	318	183	106	79	236	446	203	129	156	19	8	1
	女	649	327	205	353	195	118	113	251	558	268	149	203	19	11	8
年齢	18～19歳	18	9	3	9	5	3	2	5	17	7	5	6	0	0	0
	20～29歳	98	29	19	40	27	17	17	43	79	43	28	17	2	1	0
	30～39歳	137	40	40	56	37	15	16	56	112	50	30	42	3	3	1
	40～49歳	198	96	56	111	72	39	24	82	168	75	46	61	8	4	0
	50～59歳	197	109	61	109	66	35	40	77	170	74	39	50	3	1	0
	60～69歳	265	150	99	176	83	61	44	121	233	117	63	86	12	6	2
	70歳以上	283	142	103	170	88	54	49	103	225	105	67	97	10	4	6

問 21 あなたの身近なところで起きている環境問題で関心のあることは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 森林の減少 | 2 公園や緑地の減少 |
| 3 有害鳥獣による農作物や生活環境への被害 | 4 特定外来生物（植物を含む）の侵入 |
| 5 野生動物の減少 | 6 水生生物の減少 |
| 7 植物の減少 | 8 排気ガスや工場等排煙による大気汚染 |
| 9 河川・湖沼等の水質汚濁 | 10 工場操業や自動車等による騒音 |
| 11 気温の上昇 | 12 その他（ ） |
| 13 関心がない | |

【全体】



最も多かったのが「気温の上昇」で、74.4%の人が選択しており、関心が更に高くなった。

このことから、啓発としては住環境や健康管理について個人でできる適応策を周知することが重要と考えられる。また、農林業や水資源、生態系等にも影響することから、それら個別の施策も展開していきたい。

※「その他」に記載された主なもの

- ・花火大会の騒音。
- ・耕作放棄地の増加による環境悪化。
- ・森林の手入れがなされていない。
- ・道路や公共の場でのゴミのポイ捨て
- ・夜が明るくて星が見えなくなった。
- ・野焼きの煙。

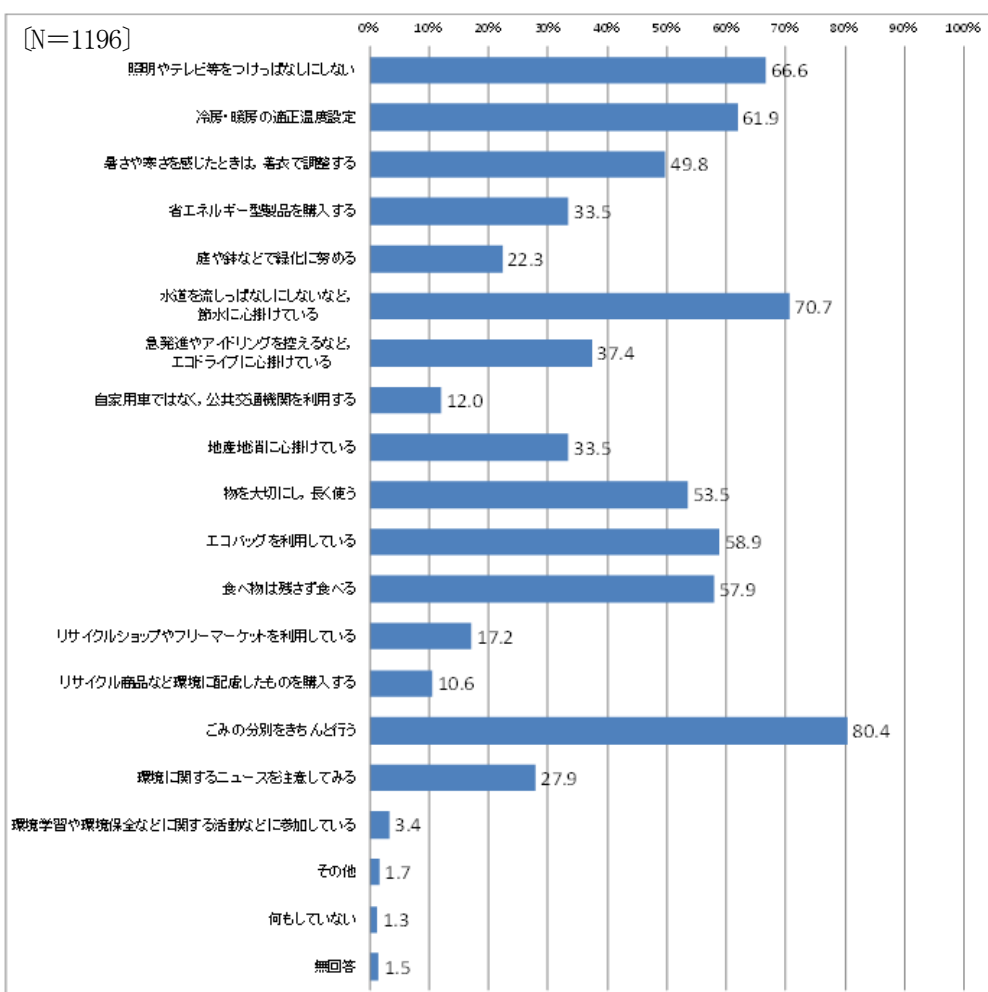
【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	森林の減少	公園や緑地の減少	有害鳥獣による農作物や生活環境への被害	特定外来生物（植物を含む）の侵入	野生動物の減少	水生生物の減少	植物の減少	排気ガスや工場等排煙による大気汚染	河川・湖沼等の水質汚染	工場操業や自動車等による騒音	気温の上昇	その他	関心がない	無回答
	全体	1196	411	251	381	406	188	168	155	227	261	158	890	159	23	25
地区	河北	347	110	71	101	134	61	57	44	68	75	48	251	51	10	9
	河南	171	63	34	51	52	23	22	25	33	39	15	117	28	1	6
	盛南	165	54	37	52	53	25	27	17	29	34	25	132	23	0	1
	厨川	270	87	59	93	91	39	32	37	50	57	37	217	24	5	3
	都南	201	76	42	70	63	34	25	24	40	45	29	144	31	6	3
	玉山	42	21	8	14	13	6	5	8	7	11	4	29	2	1	3
性別	男	547	202	112	167	179	82	83	61	87	105	71	378	87	15	10
	女	649	209	139	214	227	106	85	94	140	156	87	512	72	8	15
年齢	18～19歳	18	7	4	3	3	6	1	3	7	5	1	10	3	1	0
	20～29歳	98	54	27	27	28	18	18	14	21	16	17	63	24	1	1
	30～39歳	137	58	35	28	36	31	16	17	33	30	19	86	31	4	0
	40～49歳	198	72	35	57	60	41	24	24	33	42	31	146	36	3	3
	50～59歳	197	68	37	65	74	32	19	25	31	38	25	154	28	4	0
	60～69歳	265	77	58	100	100	26	38	31	37	58	33	211	29	5	6
	70歳以上	283	75	55	101	105	34	52	41	65	72	32	220	8	5	15

問 22 あなたが地球環境のために日常生活の中で実行している取組は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 照明やテレビ等をつけっぱなしにしない
- 2 冷房・暖房の適正温度設定
- 3 暑さや寒さを感じたときは、着衣で調整する
- 4 省エネルギー型製品を購入する
- 5 庭や鉢などで緑化に努める
- 6 水道を流しっぱなしにしないなど、節水に心掛けている
- 7 急発進やアイドリングを控えるなど、エコドライブに心掛けている
- 8 自家用車ではなく、公共交通機関を利用する
- 9 地産地消に心掛けている
- 10 物を大切にし、長く使う
- 11 エコバッグを利用している
- 12 食べ物は残さず食べる
- 13 リサイクルショップやフリーマーケットを利用している
- 14 リサイクル商品など環境に配慮したものを購入する
- 15 ごみの分別をきちんと行う
- 16 環境に関するニュースを注意して見る
- 17 環境学習や環境保全などに関する活動などに参加している
- 18 その他 ()
- 19 何もしていない

【全体】



「ごみの分別をきちんと行う」が最も高く 80.4%となり、10年前の同アンケート結果と比較して10ポイント程度高くなっている。きれいなまち推進懇談会（毎年市内25地区で開催。平成30年度の総出席者は486人）の開催をはじめ、町内会・自治会・きれいなまち推進員等が中心となって行ってきた、長年にわたる市民協働の取組によりごみ分別に対する意識の向上が図られており、これまでの成果が表れたと考える。

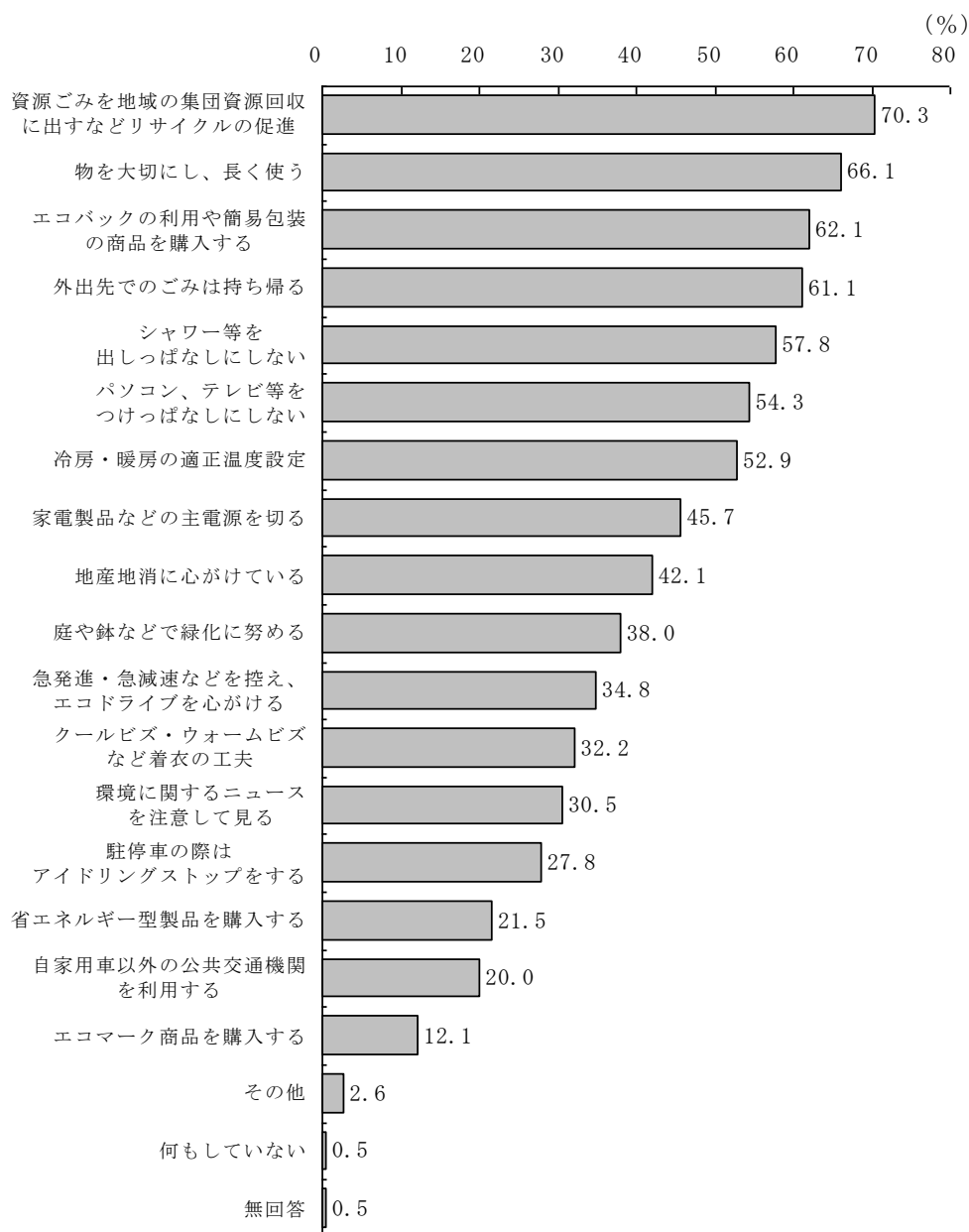
続いて「照明やテレビ等をつけっぱなしにしない」、「水道を流しっぱなしにしないなど、節水に心がけている」等の省エネ行動について7割程度の人に取り組んでおり、10年前の同アンケート結果と比較して10ポイント程度高くなっている。省エネ行動等の地球温暖化対策に関する環境啓発については、環境学習教材を利用する等重点的に行っており、その効果もあったものと思われる。

また、アンケート結果では、簡単に取り組めるものの取組率が高い傾向があった。環境への取組について重要なことは継続することであり、最初は無理のないところから始め徐々に生活に根差していくように、啓発していくことが重要と考えられる。

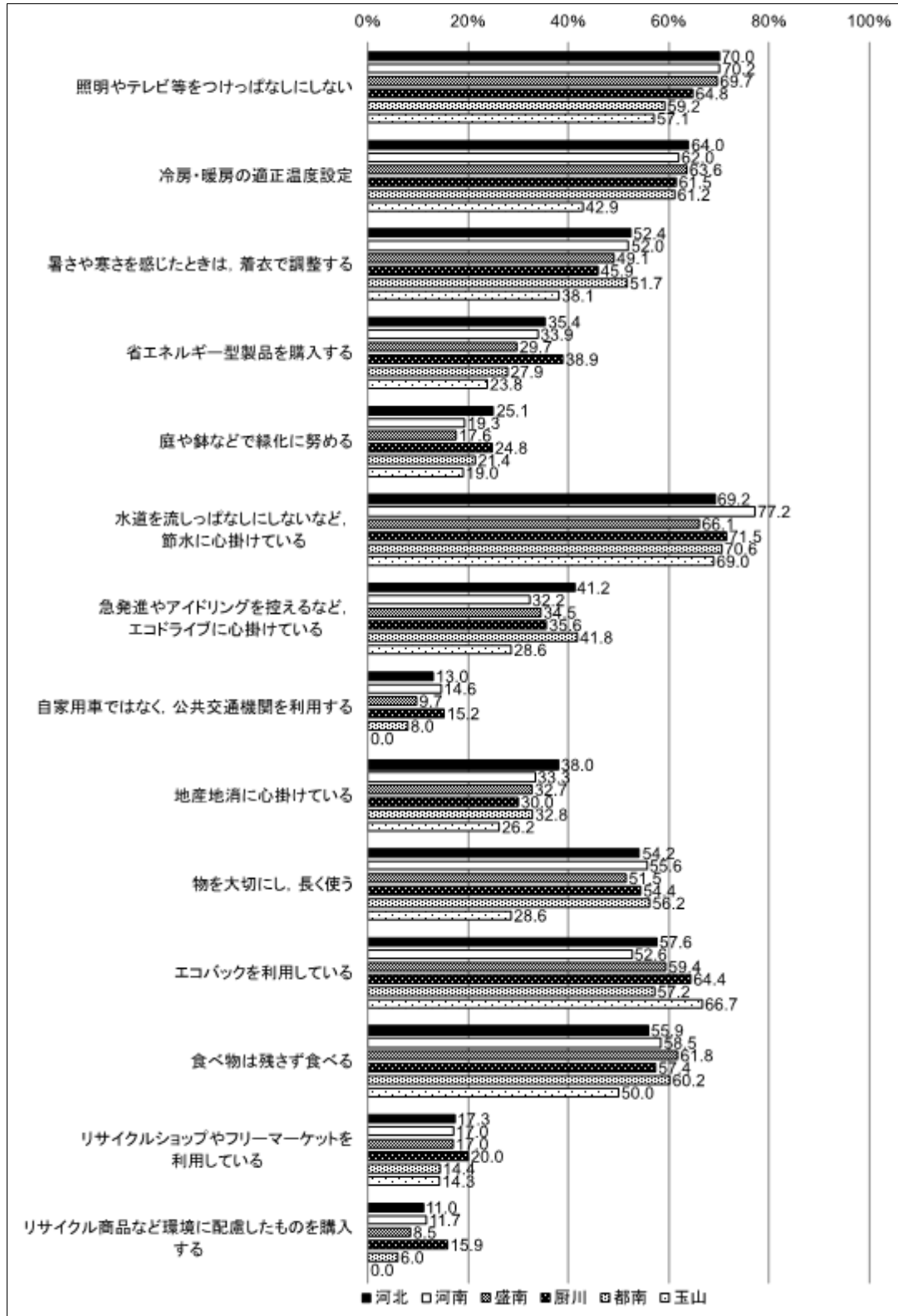
【参考】

※第18回（平成21年度）市民意識調査

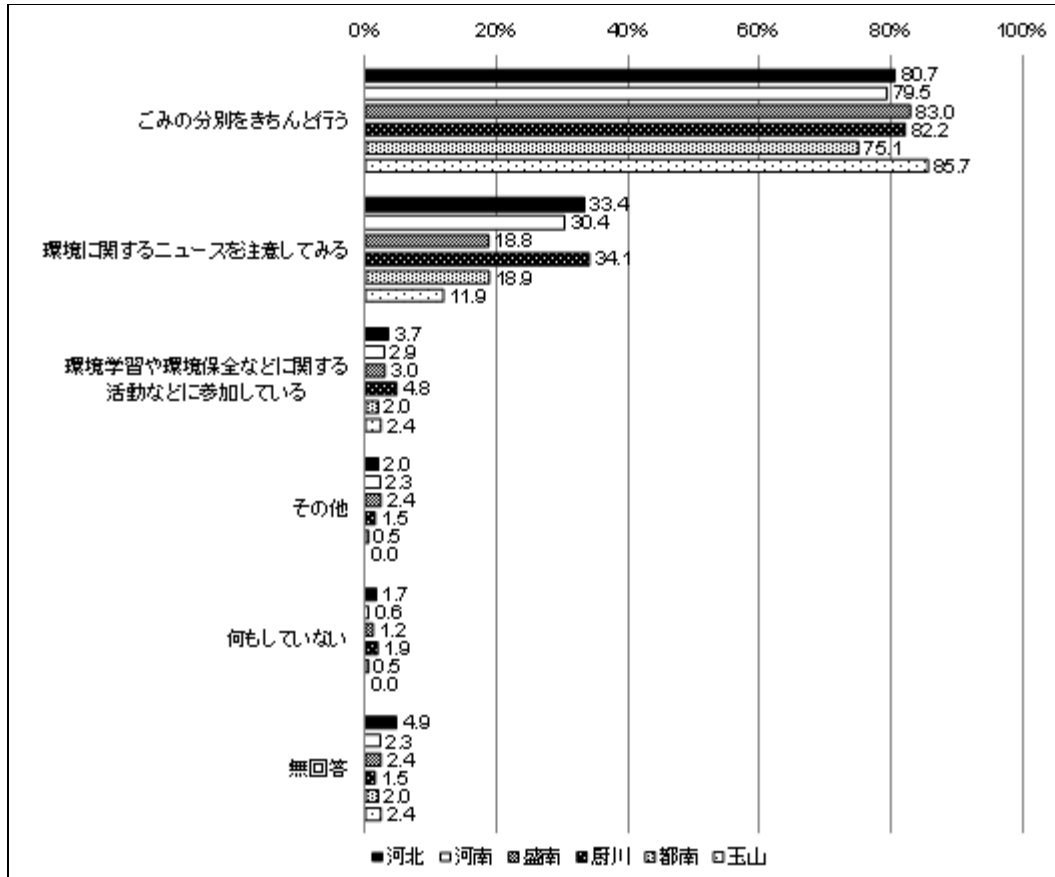
（盛岡市市長公室広聴広報課，調査期間：平成21年7月9日～7月24日 調査対象者：2,418人）



【地区別】 問 22



【地区別】 問 22



問 20 において、玉山地域の「太陽光発電など新エネルギー利用促進」への関心が高いことが分かったが、環境に関する取組については他の地域よりも全体的に低い結果となった。要因の一つとして、地域の地理的な要件等が影響していると考えられる。例えば、公共交通の取組が玉山地域で 0%なのは、公共交通の利便性が悪く、現実的に車を利用するしかないからと思われる。

これらのことから、環境への取組について啓発を行っていくとともに、公共交通の利便性の向上等、取り組みやすい状況を整える施策も重要であることが分かる。また、その地域に合わせた環境啓発、例えば玉山地域では「公共交通の利用」ではなく「エコドライブ」の周知・啓発していく等がより効果があると考えられる。

「ごみの分別」について、都南地域が他の地域よりも取組率が低かったが、これは都南地域では生ごみの分、分別数が多いことが影響していると思われる。分別数が多いことは悪いことではなく、都南地域におけるごみの量は他の地域よりも少ない。重要なのは分別数が多くても分別に取り組んでもらえるように、理解を求めていくことと思われる。

※「その他」に記載された主なもの

- ・できるだけペットボトル飲料は購入せずマイボトルを持って歩く。
- ・生ゴミは堆肥化。
- ・界面活性剤を使わない洗剤を使用する。
- ・自転車の利用を移動のメインにしている。

【性別, 年代別, 地区別の回答数】問 22

		対象者数	照明やテレビ等をつければなしにしない	冷房・暖房の適正温度設定	暑さや寒さを感じたときは、着衣で調整する	省エネルギー型製品を購入する	庭や鉢などで緑化に努める	水道を流しっぱなしにしないなど、節水に心掛けている	急発進やアイドリングを控えるなど、エコドライブに心掛けている	自家用車ではなく、公共交通機関を利用する	地産地消に心掛けている	物を大切にし、長く使う
	全体	1196	796	740	596	401	267	845	447	143	401	640
地区	河北	347	243	222	182	123	87	240	143	45	132	188
	河南	171	120	106	89	58	33	132	55	25	57	95
	盛南	165	115	105	81	49	29	109	57	16	54	85
	厨川	270	175	166	124	105	67	193	96	41	81	147
	都南	201	119	123	104	56	43	142	84	16	66	113
	玉山	42	24	18	16	10	8	29	12	0	11	12
性別	男	547	345	317	246	177	105	364	235	54	154	288
	女	649	451	423	350	224	162	481	212	89	247	352
年齢	18～19歳	18	8	10	7	3	1	11	1	1	0	5
	20～29歳	98	56	54	41	19	6	60	28	11	14	55
	30～39歳	137	73	84	59	38	13	85	47	12	34	59
	40～49歳	198	127	112	81	54	25	139	80	22	64	90
	50～59歳	197	128	121	91	76	35	142	92	16	72	108
	60～69歳	265	194	177	156	118	88	186	116	37	110	147
	70歳以上	283	210	182	161	93	99	222	83	44	107	176

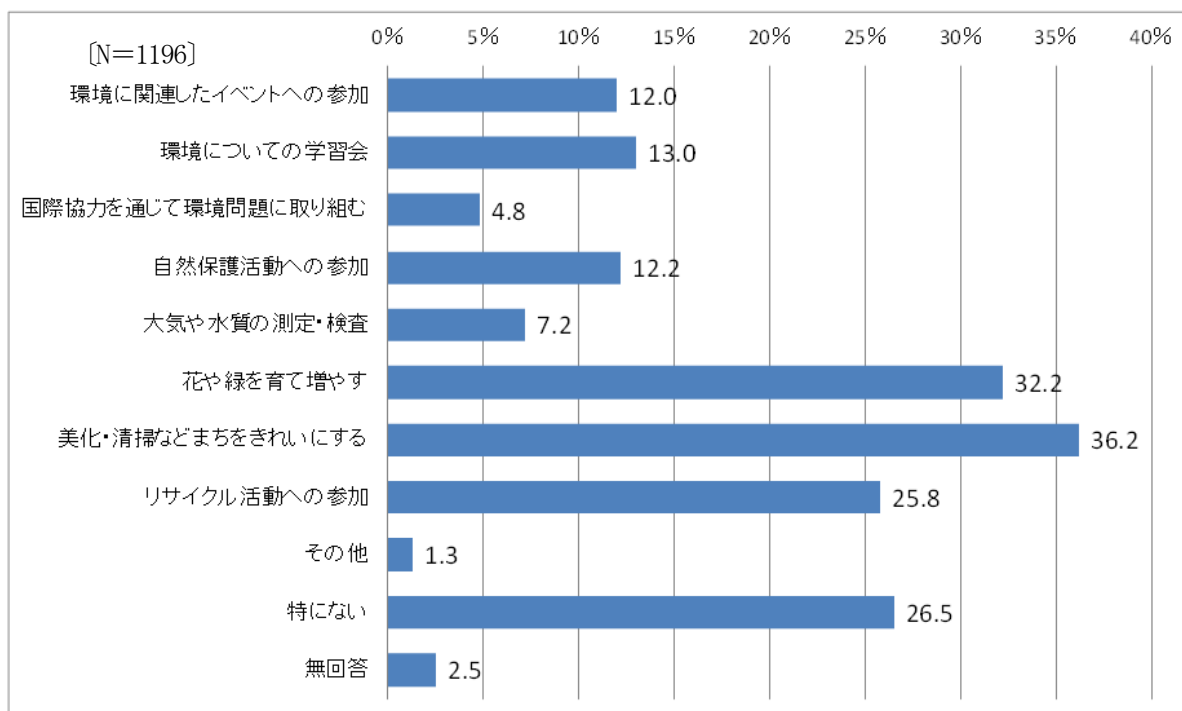
【性別、年代別、地区別の回答数】問 22

		エコバッグを利用している	食べ物は残さず食べる	リサイクルショップやフリーマーケットを利用している	リサイクル商品など環境に配慮したものを購入する	ごみの分別をきちんと行う	環境に関するニュースを注意して見る	環境学習や環境保全などに関する活動などに参加している	その他	何もしていない	無回答
	全体	705	693	206	127	962	334	41	20	15	12
地区	河北	200	194	60	38	280	116	13	7	6	5
	河南	90	100	29	20	136	52	5	4	1	3
	盛南	98	102	28	14	137	31	5	4	2	1
	厨川	174	155	54	43	222	92	13	4	5	1
	都南	115	121	29	12	151	38	4	1	1	0
	玉山	28	21	6	0	36	5	1	0	0	2
性別	男	245	320	82	42	423	149	21	12	13	3
	女	460	373	124	85	539	185	20	8	2	9
年齢	18～19歳	5	9	1	0	10	2	1	0	2	0
	20～29歳	50	65	18	6	65	11	4	2	2	1
	30～39歳	71	82	28	11	88	33	5	3	3	1
	40～49歳	115	113	36	15	160	42	6	1	0	1
	50～59歳	127	112	29	18	159	51	5	1	3	0
	60～69歳	178	158	50	37	231	91	4	8	3	2
	70歳以上	159	154	44	40	249	104	16	5	2	7

問 23 あなたが環境に関する活動で参加したいと思っていることは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

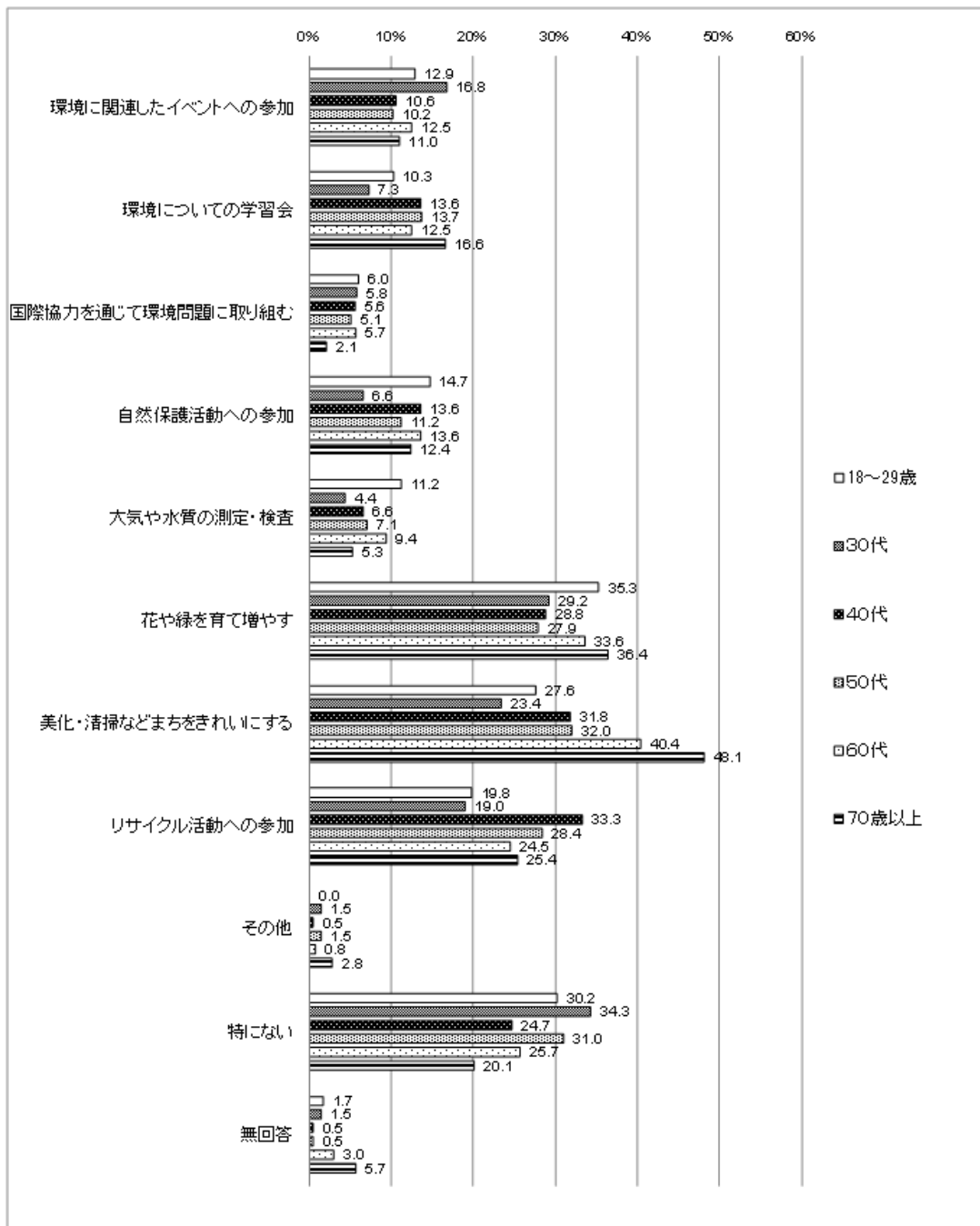
- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 環境に関連したイベントへの参加 | 2 環境についての学習会 |
| 3 国際協力を通じて環境問題に取り組む | 4 自然保護活動への参加 |
| 5 大気や水質の測定・検査 | 6 花や緑を育て増やす |
| 7 美化・清掃などまちをきれいにする | 8 リサイクル活動への参加 |
| 9 その他 () | 10 特にない |

【全体】



「美化・清掃などまちをきれいにする」や「花や緑を育て増やす」の項目が高かった。より住環境に関連した項目が高い傾向がみられた。身近なものや触れる機会が多いものについて関心を持ち、活動にも参加してみたいという傾向があることから、「特にない」が3番目に多いという結果を改善するには、環境に関して触れる機会を増やしたり、実際の生活と密接にかかわっていることを周知したりしていくことが重要であると思われる。

【年代別】



上の年代が、住環境に関する項目を選択する傾向が高く、普段の生活により関係の深い住環境をより良くしようとする意識が高いと思われる。

【全体を通じて】

環境啓発イベントについては、盛岡市環境基本計画の中で「持続可能な地域社会の実現に取り組む市民のまち」をめざして取り組まれており、環境学習講座（H30は23回開催、参加者数364人）等を開催している。問22の結果からもこれまでの環境啓発の効果があつたと推測されたが、今後、より効果的な環境啓発を行っていくために、このアンケート結果も参考にしながら、市民がより興味関心のあるイベントを実施していきたい。

※「その他」に記載された主なもの

- ・関連機関への募金
- ・有料レジ袋で実質的に環境募金となるような「忙しい人」でも間接的に関われる方法

【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	環境に関連したイベントへの参加	環境についての学習会	国際協力を通じて環境問題に取り組む	自然保護活動への参加	大気や水質の測定・検査	花や緑を育て増やす	美化・清掃などまちをきれいにする	リサイクル活動への参加	その他	特にない	無回答
	全体	1196	143	156	57	146	86	385	433	308	16	317	30
地区	河北	347	45	50	16	45	16	110	131	88	7	91	9
	河南	171	23	26	10	19	15	47	62	43	2	47	5
	盛南	165	23	22	9	18	7	50	53	39	1	48	3
	厨川	270	31	33	13	31	30	97	107	77	6	65	8
	都南	201	16	20	8	29	17	68	67	52	0	57	2
	玉山	42	5	5	1	4	1	13	13	9	0	9	3
性別	男	547	73	81	24	80	44	150	187	133	8	160	11
	女	649	70	75	33	66	42	235	246	175	8	157	19
年齢	18～19歳	18	4	1	4	1	1	5	5	4	0	4	0
	20～29歳	98	11	11	3	16	12	36	27	19	0	31	2
	30～39歳	137	23	10	8	9	6	40	32	26	2	47	2
	40～49歳	198	21	27	11	27	13	57	63	66	1	49	1
	50～59歳	197	20	27	10	22	14	55	63	56	3	61	1
	60～69歳	265	33	33	15	36	25	89	107	65	2	68	8
	70歳以上	283	31	47	6	35	15	103	136	72	8	57	16

《テーマ4 地域コミュニティについて》

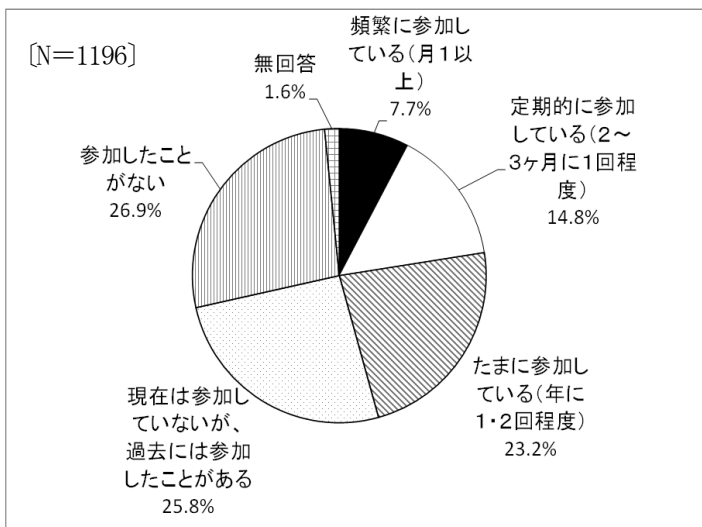
問 24 あなたは、主に住民によって組織された団体（注1）が行う地域活動（注2）に、どのくらいの頻度で参加していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

（注1） 住民によって組織された団体の例：町内会・自治会、子ども会、老人クラブ、地区福祉推進会、地区自治公民館連絡協議会、地域づくり組織など

（注2） 地域活動の例：清掃活動、お祭り、見守り活動、防災訓練、世代間交流、資源回収、あいさつ運動など

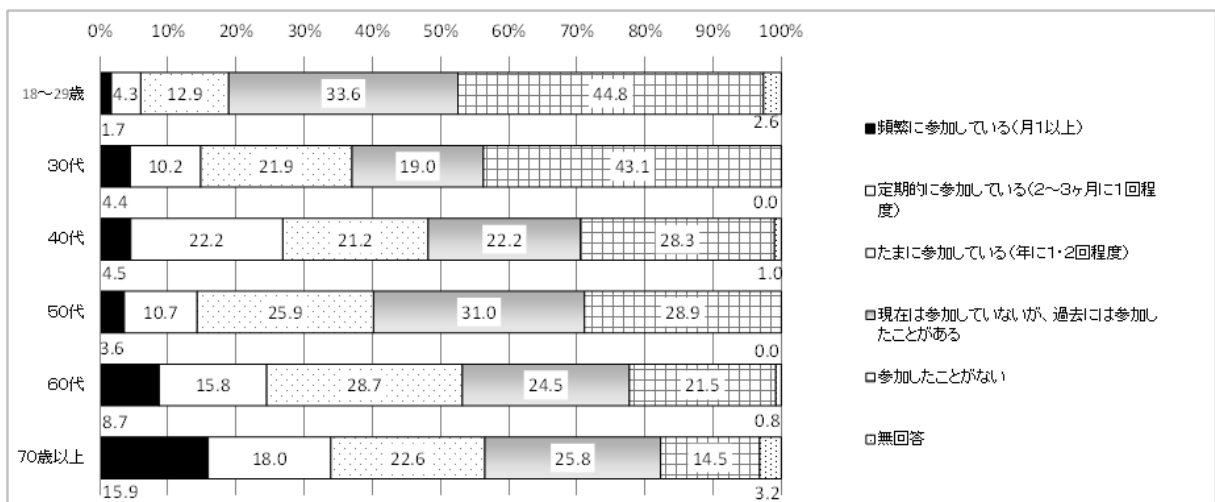
- 1 頻繁に参加している（月1以上）
- 2 定期的に参加している（2～3か月に1回程度）
- 3 たまに参加している（年に1・2回程度）
- 4 現在は参加していないが、過去には参加したことがある
- 5 参加したことがない

【全体】



現在、活動に参加している人は全体の45.7%。多くの団体では地域活動の担い手不足や高齢化が課題となっている。活動事例の紹介や地域づくり講座等、地域コミュニティに関心を持ってもらうための活動に取り組む。

【年代別】



現在、地域活動に参加している人の割合（項目1～3の合計）は、年齢に比例し高くなっている。特に、「頻繁に参加している」は、70歳以上が15.9%と全世代の中では最も高かった。

【全体を通じて】

「盛岡市まちづくりアンケート」のコミュニティ活動への参加状況の設問では、「この1年参加したことがない」が平成30年度は54.7%、平成29年度は52.2%であり、依然として過半数を占めていることから、コミュニティの活力低下が懸念される。

回答分布からは、年代や地域性による特徴や傾向があることが読み取れるので、それぞれの特徴に応じた施策を講じる必要がある。

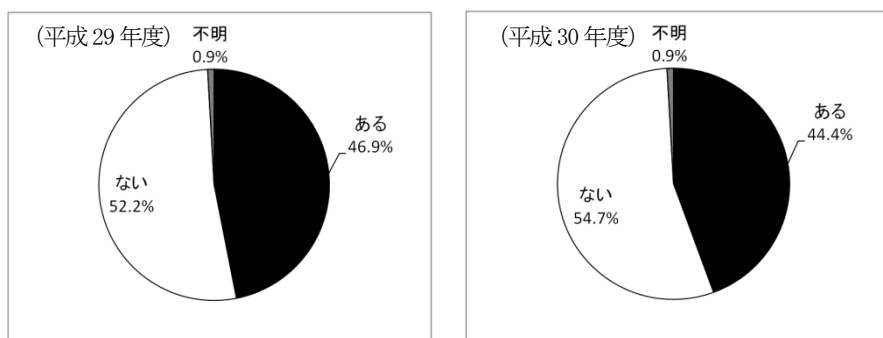
【参考】

※平成29年度、30年度盛岡市まちづくりアンケート（盛岡市市長公室企画調整課）

・調査期間及び有効回答数

平成29年度…平成29年11月28日～12月22日 有効回答数：1,372人

平成30年度…平成30年11月27日～12月21日 有効回答数：1,296人



【性別、年代別、地区別の回答数】

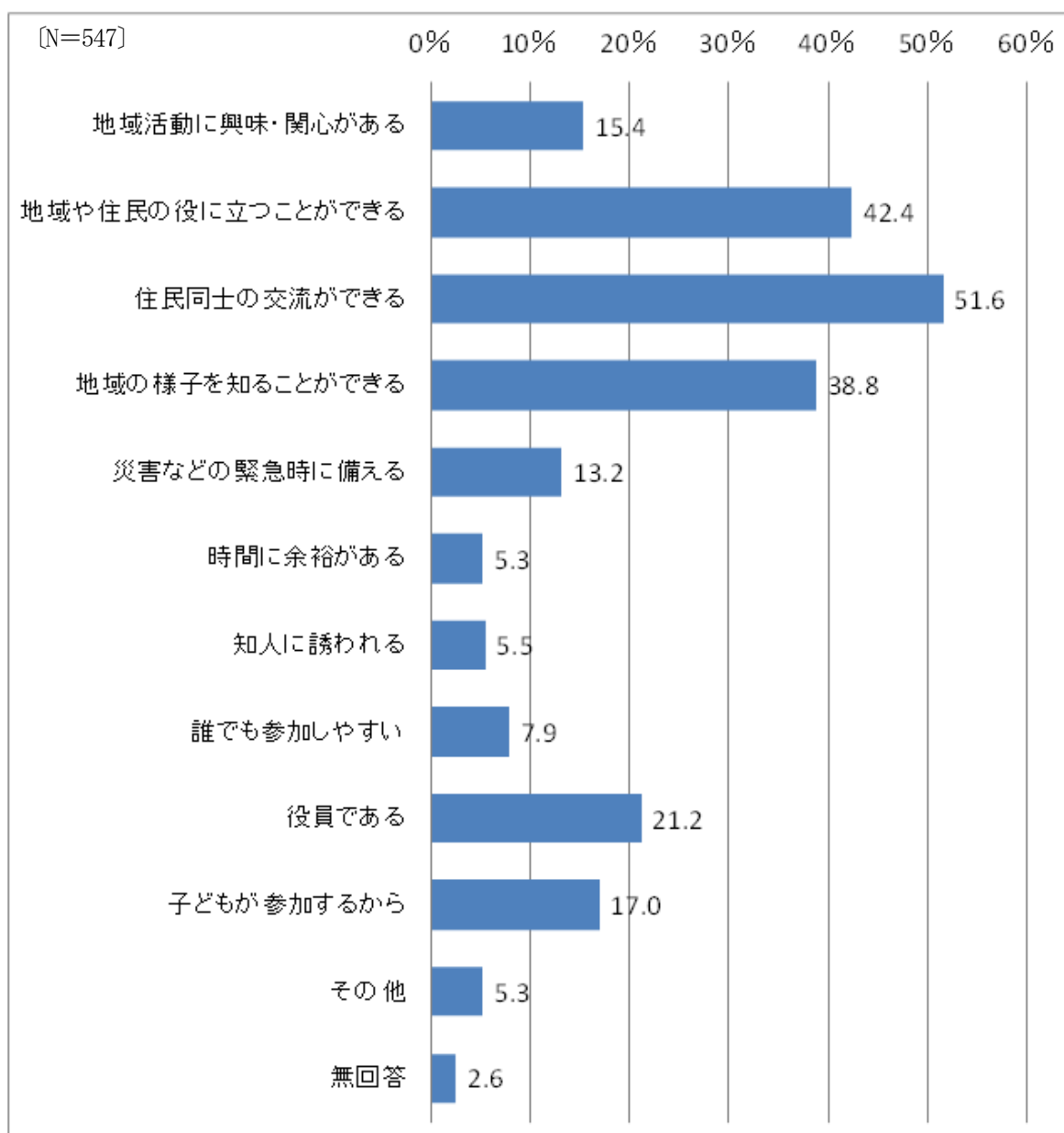
		対象者数	頻繁に参加している (月1以上)	定期的に参加している (2～3ヶ月に1回程度)	たまに参加している (年に1・2回程度)	現在は参加していないが、 過去には参加したことがある	参加したことがない	無回答
	全体	1196	92	177	278	308	322	19
地区	河北	347	28	40	86	94	94	5
	河南	171	13	19	31	48	55	5
	盛南	165	13	28	40	35	47	2
	厨川	270	20	45	61	75	66	3
	都南	201	15	34	46	50	55	1
	玉山	42	3	11	14	6	5	3
性別	男	547	49	70	124	121	175	8
	女	649	43	107	154	187	147	11
年齢	18～19歳	18	0	1	3	9	5	0
	20～29歳	98	2	4	12	30	47	3
	30～39歳	116	2	5	15	39	52	3
	40～49歳	137	6	14	31	26	59	1
	50～59歳	198	9	44	42	44	56	3
	60～69歳	197	7	20	50	61	57	2
	70歳以上	265	23	42	76	65	57	2

問25 問24で1, 2, 3を選んだ方にお聞きします。

あなたが、地域活動に参加する理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

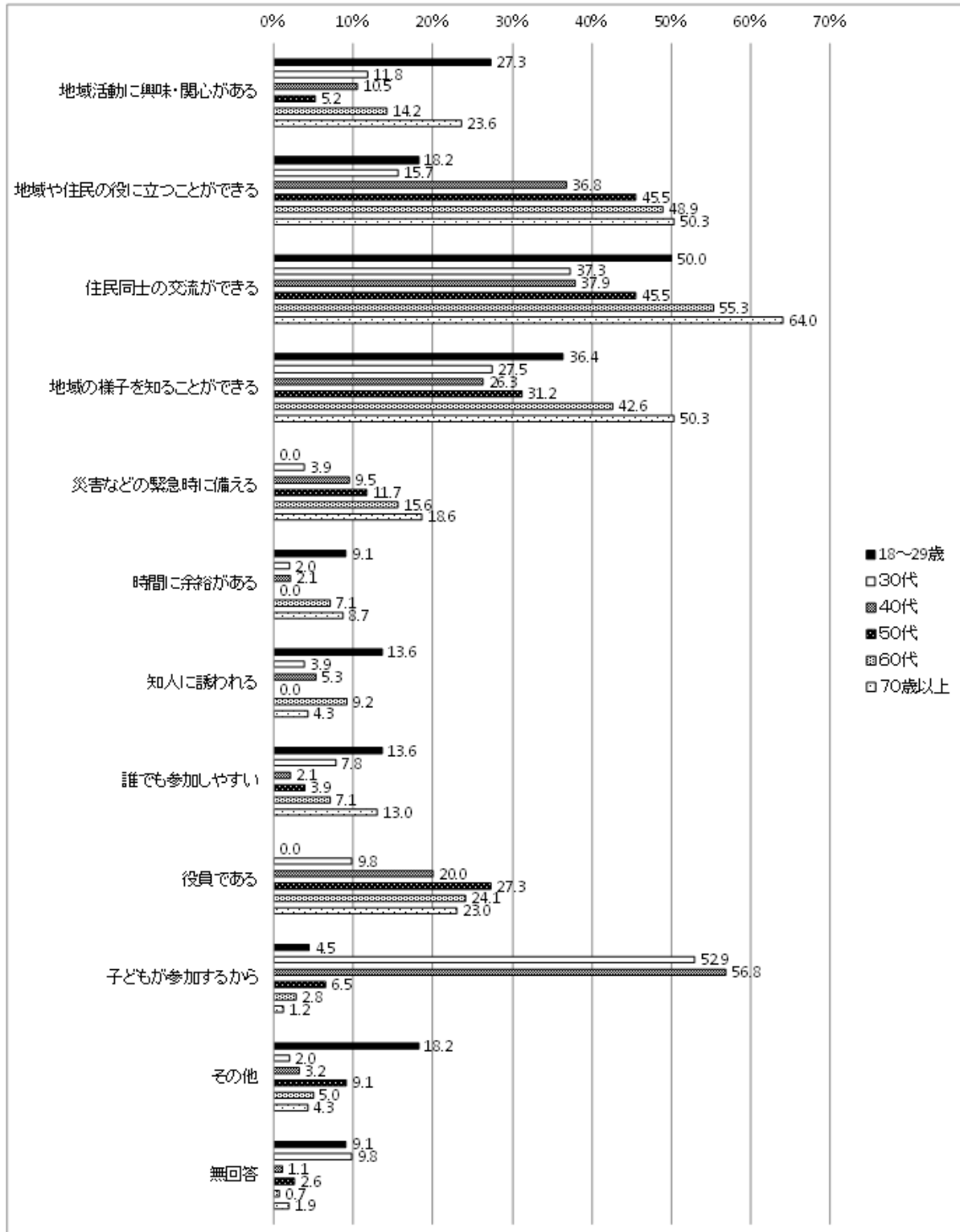
- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 地域活動に興味・関心がある | 2 地域や住民の役に立つことができる |
| 3 住民同士の交流ができる | 4 地域の様子を知ることができる |
| 5 災害などの緊急時に備える | 6 時間に余裕がある |
| 7 知人に誘われる | 8 誰でも参加しやすい |
| 9 役員である | 10 子どもが参加するから |
| 11 その他 () | |

【全体】



「住民同士の交流ができる」が最も高く 51.6%, 次いで「地域や住民の役に立つことができる」が 42.4%, 「地域の様子を知ることができる」が 38.8%であり、他の質問に比べこの上位3つが突出して高かった。

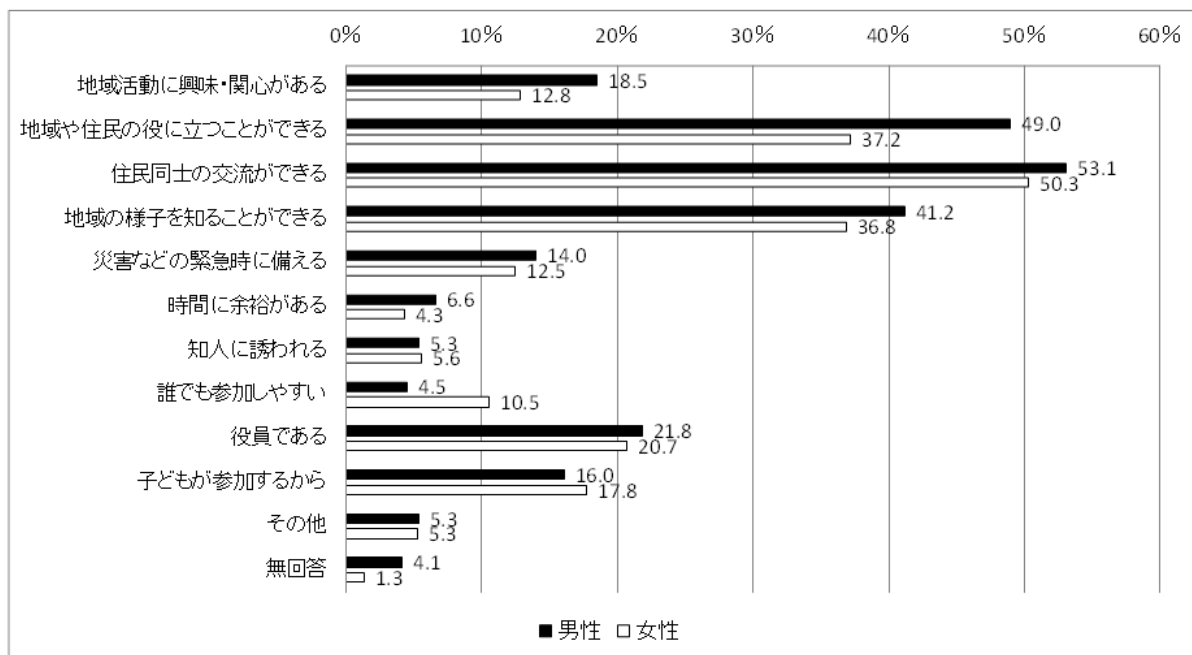
【年代別】



30代、40代は「子どもが参加するから」の回答が、他の項目また他の年代と比較し、突出している点
 が特徴的である。これは、学校やPTA、子ども会活動を通じて、親子で地域活動に参加する機会や町内
 会等が行う世代間交流等の行事が多いことが考えられる。

「住民同士の交流ができる」は、全体的に回答率が高く、特に60代以上になると過半数を占めている。
 また、「地域や住民の役に立つことができる」、「地域の様子をを知ることができる」も年齢が上がるにつれ徐々
 に増加傾向である。このことから、年代が上がるにつれ、地域コミュニティとの関わりがライフスタイル
 に占める割合が高くなっていると考えられる。

【性別】



上位3つは男女ともに同じであったが、特に2位の「地域や住民の役に立つことができる」は、男性の方が11.8ポイント高かった。

同様に男女間での差が目立った項目は、「地域活動に興味関心がある」は男性の方が5.7ポイント高く、一方「誰でも参加しやすい」は女性の方が6ポイント高かった。

【全体を通じて】

「住民同士の交流ができる」は、性別・年代別・地区別共通して回答が多く、コミュニティに求められる役割が明らかになった。このことから、自然災害や高齢化が進む社会において、住民同士のたすけあい非常に重要であり、地域コミュニティはその核としての機能が期待されていることがうかがえる。

特に、地域活動の担い手不足や高齢化が長期的課題となっているコミュニティにおいては、子どもやその親が、子どもが成人した後も将来にわたり地域とのつながりを維持・継続できるような仕組みづくりが重要となってくる。また、「地域や住民の役に立つことができる」や「地域の様子を知ることができる」の回答も多かったことから、地域コミュニティには活躍の場やきっかけを求めている人たちが潜在していると考えられる。

活動事例の紹介や講座の実施等により、地域活動の担い手となる人材の発掘や育成、また地域活動に参加したい人と人材を求めている人とのマッチングの仕組みづくり等、コミュニティの維持・活性化のための環境づくりに必要な情報や知識の普及が必要である。

※「その他」に記載された主なもの

- ・近所の方に小さな子どものことを知ってもらうため。
- ・親に誘われて。
- ・義務感。
- ・職場での地域交流を図るため。
- ・当番があるので仕方なく。
- ・両親がお世話になり、地域で子どもたちを育てていただいたので、感謝の気持ちから。

【性別、年代別、地区別の回答数】

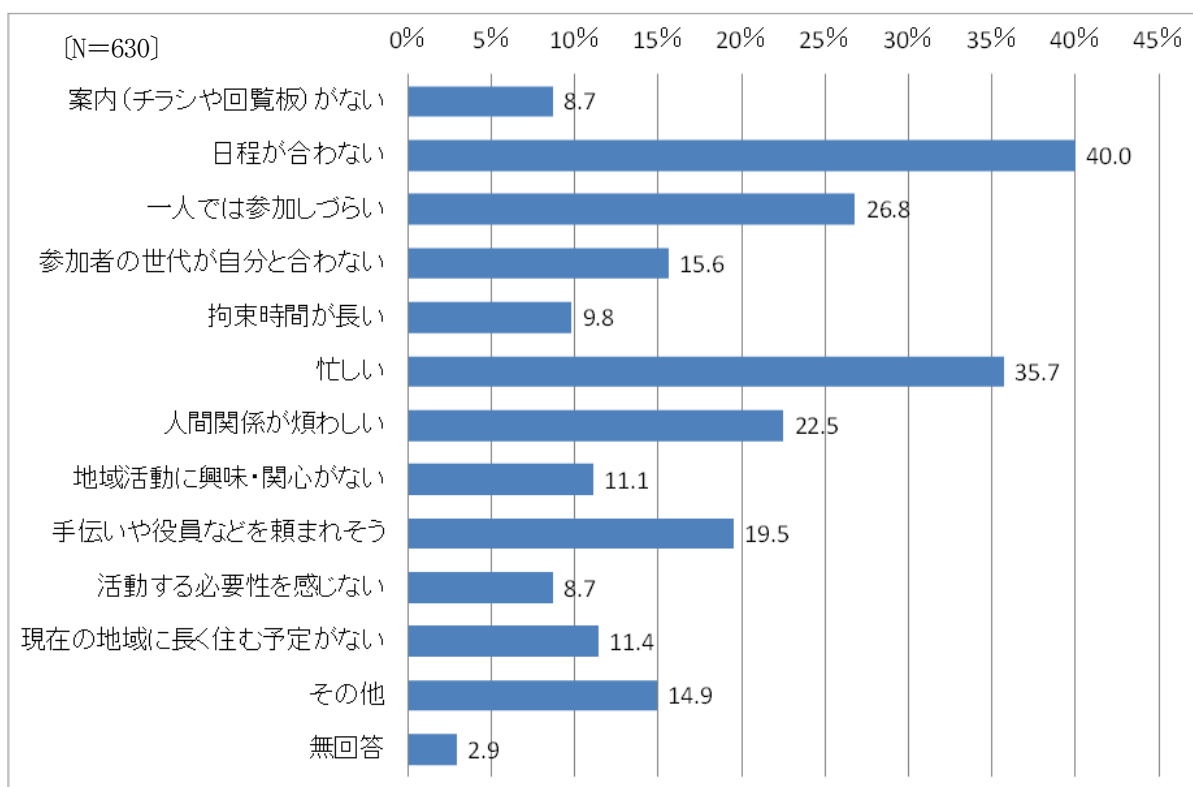
		対象者数	地域活動に興味・関心がある	地域や住民の役に立つことができる	住民同士の交流ができる	地域の様子をを知ることができる	災害などの緊急時に備える	時間に余裕がある	知人に誘われる	誰でも参加しやすい	役員である	子どもが参加するから	その他	無回答
	全体	547	84	232	282	212	72	29	30	43	116	93	29	14
地区	河北	154	22	66	78	66	22	9	10	16	32	21	9	8
	河南	63	11	28	31	22	11	3	2	3	14	7	3	4
	盛南	81	12	27	39	31	9	2	3	3	14	21	6	1
	厨川	126	26	60	67	51	19	11	7	10	29	28	2	1
	都南	95	9	43	52	31	7	4	5	7	21	14	7	0
	玉山	28	4	8	15	11	4	0	3	4	6	2	2	0
性別	男	243	45	119	129	100	34	16	13	11	53	39	13	10
	女	304	39	113	153	112	38	13	17	32	63	54	16	4
年齢	18～19歳	4	2	1	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0
	20～29歳	18	4	3	9	8	0	1	1	2	0	1	4	2
	30～39歳	51	6	8	19	14	2	1	2	4	5	27	1	5
	40～49歳	95	10	35	36	25	9	2	5	2	19	54	3	1
	50～59歳	77	4	35	35	24	9	0	0	3	21	5	7	2
	60～69歳	141	20	69	78	60	22	10	13	10	34	4	7	1
	70歳以上	161	38	81	103	81	30	14	7	21	37	2	7	3

問26 問24で4・5を選んだ方にお聞きします。

あなたが、地域活動に消極的な理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 案内（チラシや回覧板）がない | 2 日程が合わない |
| 3 一人では参加しづらい | 4 参加者の世代が自分と合わない |
| 5 拘束時間が長い | 6 忙しい |
| 7 人間関係が煩わしい | 8 地域活動に興味・関心がない |
| 9 手伝いや役員などを頼まれそう | 10 活動する必要性を感じない |
| 11 現在の地域に長く住む予定がない | 12 その他（ ） |

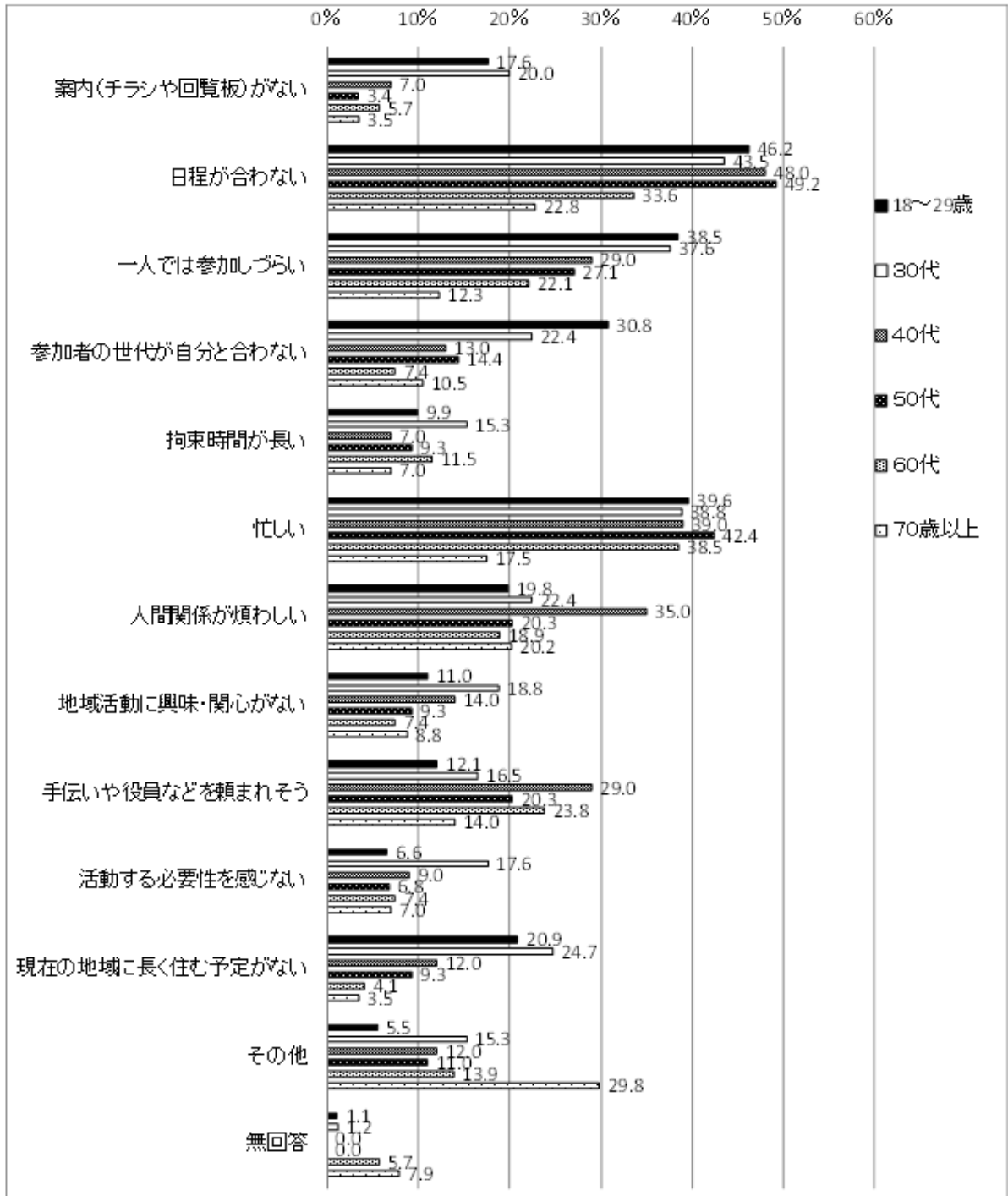
【全体】



「日程が合わない」が40.0%、次いで「忙しい」が35.7%と高かった。

「日程が合わない」の理由について、今回の結果だけでは把握できないが、常時忙しくて参加する時間がない場合のほかに、生活スタイルとの日程が合えば参加できる場合も含まれると推測される。

【年代別】



「案内がない」と「参加者の世代が自分と合わない」が30代以下が高い。

また、「現在の地域に長く住む予定がない」は20代・30代が、「活動する必要性を感じない」は30代が突出して高いことが特徴的である。

これらの回答が30代またはそれ以下の年代に多い原因として、活動内容に偏りがある（参加対象が高齢者、子育て世代等）、地域のことを知る機会がない（進学・転勤等により転居して日が浅い、一時的な生活の場という意識が強い等）が考えられる。

また、「その他」の理由には、「組織運営のあり方に賛同できない」、「活動内容が不明又は合わない」等が挙げられた。

【全体を通じて】

多くのコミュニティでは、地域活動の担い手不足、参加者の固定化・高齢化等が課題となっており、多様な世代等の地域活動への参加が求められている。回答結果から、働き世代や単身世帯等多様なライフスタイルの住民が、活動に参加しやすい環境づくりが重要と考えられる。その1つに、世代や居住形態等に合わせた情報発信の工夫等、多くの住民に情報が伝達しやすいよう情報発信の在り方を検討する必要がある。また、多様な住民が地域に関心を持ち、また活動に関わることにより、組織運営の透明性にもつながることが期待できる。

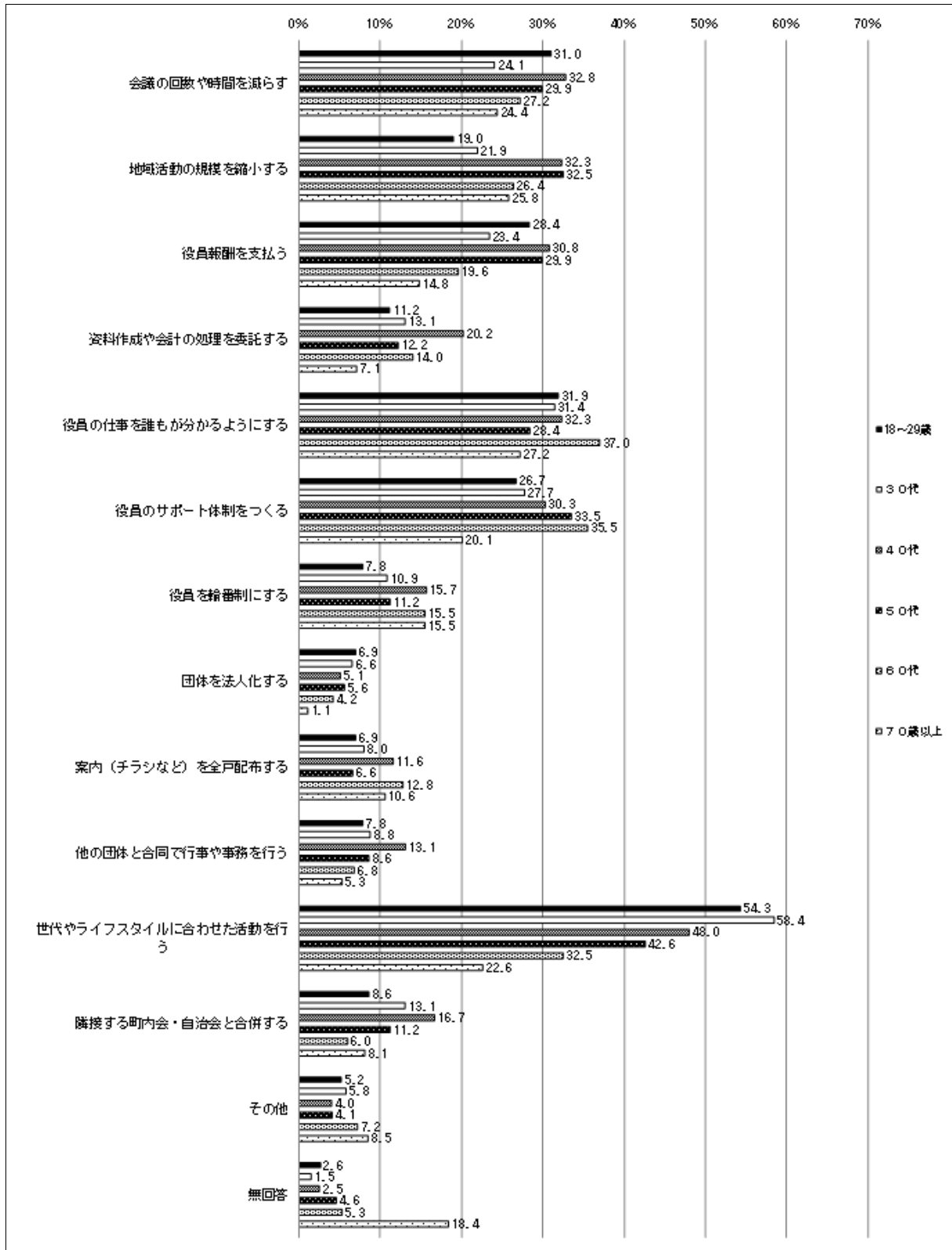
※「その他」に記載された主なもの

- ・単身者向けのイベントがないと思われるため。
- ・アパートの管理会社経由で町内会費を納めているが、地域活動の案内はもらったことがなく、分からない。
- ・マンションの組合はあるが地域の自治会に参加してないため。子ども会を卒業してから疎遠になっている。
- ・過去に役員等の仕事を頼まれたから。
- ・運営の仕方に賛同できない。町内会の取組が不適切。
- ・高齢、体力の衰えのため。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		対象者数	案内（チラシや回覧板）がない	日程が合わない	一人では参加しづらい	参加者の世代が自分と合わない	拘束時間が長い	忙しい	人間関係が煩わしい	地域活動に興味・関心がない	手伝いや役員などを頼まれそう	活動する必要性を感じない	現在の地域に長く住む予定がない	その他	無回答
	全体	630	55	252	169	98	62	225	142	70	123	55	72	94	18
地区	河北	188	16	75	46	26	22	67	39	20	32	13	17	29	6
	河南	103	15	47	26	18	14	36	31	17	22	12	14	11	3
	盛南	82	9	29	22	17	7	29	15	9	14	9	8	20	2
	厨川	141	13	49	49	23	10	46	34	15	35	14	14	18	6
	都南	105	2	45	23	12	8	43	23	8	18	6	18	16	1
	玉山	11	0	7	3	2	1	4	0	1	2	1	1	0	0
性別	男	296	28	125	75	41	34	102	66	37	65	29	32	36	8
	女	334	27	127	94	57	28	123	76	33	58	26	40	58	10
年齢	18～19歳	14	3	7	7	4	0	7	2	1	1	0	1	1	0
	20～29歳	77	13	35	28	24	9	29	16	9	10	6	18	4	1
	30～39歳	85	17	37	32	19	13	33	19	16	14	15	21	13	1
	40～49歳	100	7	48	29	13	7	39	35	14	29	9	12	12	0
	50～59歳	118	4	58	32	17	11	50	24	11	24	8	11	13	0
	60～69歳	122	7	41	27	9	14	47	23	9	29	9	5	17	7
	70歳以上	114	4	26	14	12	8	20	23	10	16	8	4	34	9

【年代別】



「世代やライフスタイルに合わせた活動を行う」は、若い世代ほど割合が高かった。
 また、「役員の仕事を誰もが分かるようにする」、「会議の回数や時間を減らす」は世代共通してほぼ同じ割合の回答率であった。

【全体を通じて】

「役員の負担軽減」に関する意見が多く挙げられた。また、主に 60 代以上では「組織の運営や体制の見直し」、30 代から 50 代では「組織の統廃合」という意見があった。

問 24 から活動参加者の高齢化がみられることから、コミュニティの維持・活性化には負担軽減策及び若い世代も活動に参加しやすい環境づくりが重要であるといえる。

※「その他」に記載された主なもの

- ・そもそも必要な行事なのか精査し、優先順位を決める。
- ・今のやり方に若い世代を合わせさせるのではなく、彼らの生活リズム等を考慮して一緒に仕事内容や仕組みを考え、見直す。
- ・町内会はすでに形骸化していると思う。廃する事も議論せねばならない。
- ・役員の任期の上限を決める。

【性別、年代別、地区別の回答数】

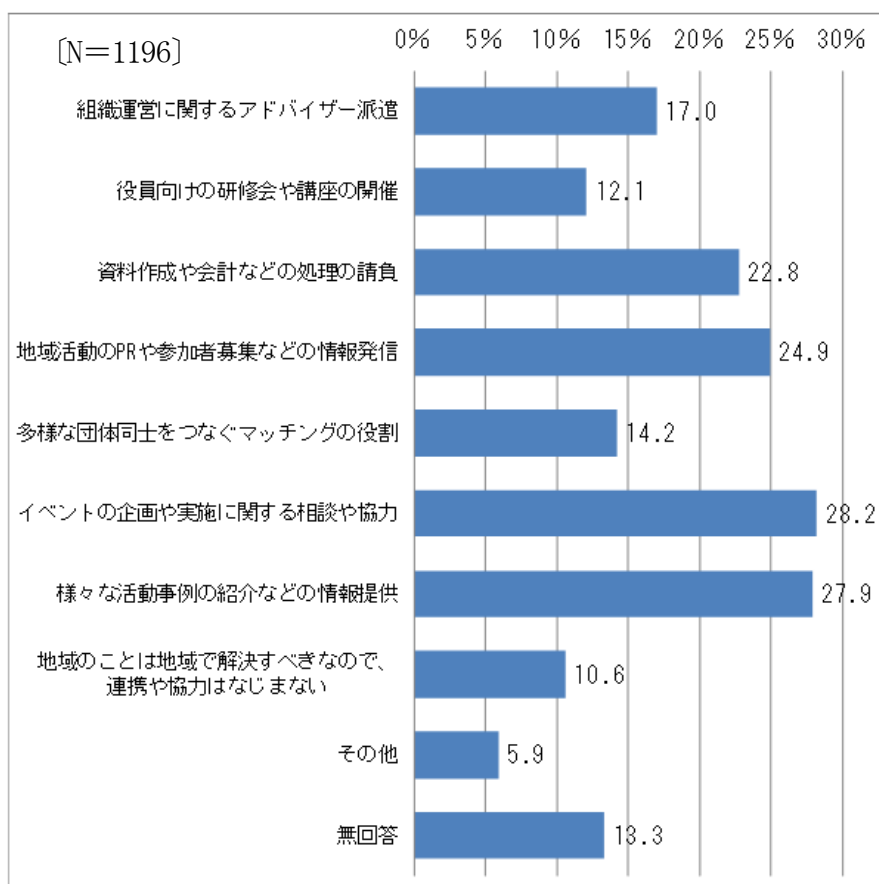
		対象者数	会議の回数や時間を減らす	地域活動の規模を縮小する	役員報酬を支払う	資料作成や会計の処理を委託する	役員の仕事を誰もが分かるようにする	役員をサポート体制をつくる	役員を輪番制にする	団体を法人化する	案内（チラシなど）を全戸配布する	他の団体と合同で行事や事務を行う	世代やライフスタイルに合わせた活動を行う	隣接する町内会・自治会と合併する	その他	無回答
	全体	1196	334	323	279	152	375	346	162	52	119	97	472	122	73	85
地区	河北	347	102	80	82	39	119	102	44	14	27	23	140	35	19	25
	河南	171	42	48	35	23	52	48	25	7	20	17	68	21	12	13
	盛南	165	46	47	48	25	43	39	23	9	17	16	71	22	12	8
	厨川	270	81	84	58	28	92	78	31	9	29	23	97	21	18	22
	都南	201	51	51	43	32	55	69	31	12	22	14	82	18	11	12
	玉山	42	12	13	13	5	14	10	8	1	4	4	14	5	1	5
性別	男	547	129	127	141	61	163	173	78	35	51	42	192	61	37	38
	女	649	205	196	138	91	212	173	84	17	68	55	280	61	36	47
年齢	18～19 歳	18	5	3	4	1	7	2	1	0	4	2	13	2	0	0
	20～29 歳	98	31	19	29	12	30	29	8	8	4	7	50	8	6	3
	30～39 歳	137	33	30	32	18	43	38	15	9	11	12	80	18	8	2
	40～49 歳	198	65	64	61	40	64	60	31	10	23	26	95	33	8	5
	50～59 歳	197	59	64	59	24	56	66	22	11	13	17	84	22	8	9
	60～69 歳	265	72	70	52	37	98	94	41	11	34	18	86	16	19	14
	70 歳以上	283	69	73	42	20	77	57	44	3	30	15	64	23	24	52

問 28 上記の団体が抱える地域課題の解決のために、住民以外の人たちで構成される団体（注）との連携や協力があれば解決できると思う方法は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

（注）ボランティア団体、大学などの学校、サークル団体、NPO法人、その他の市民活動団体など、特定の目的のために活動している団体

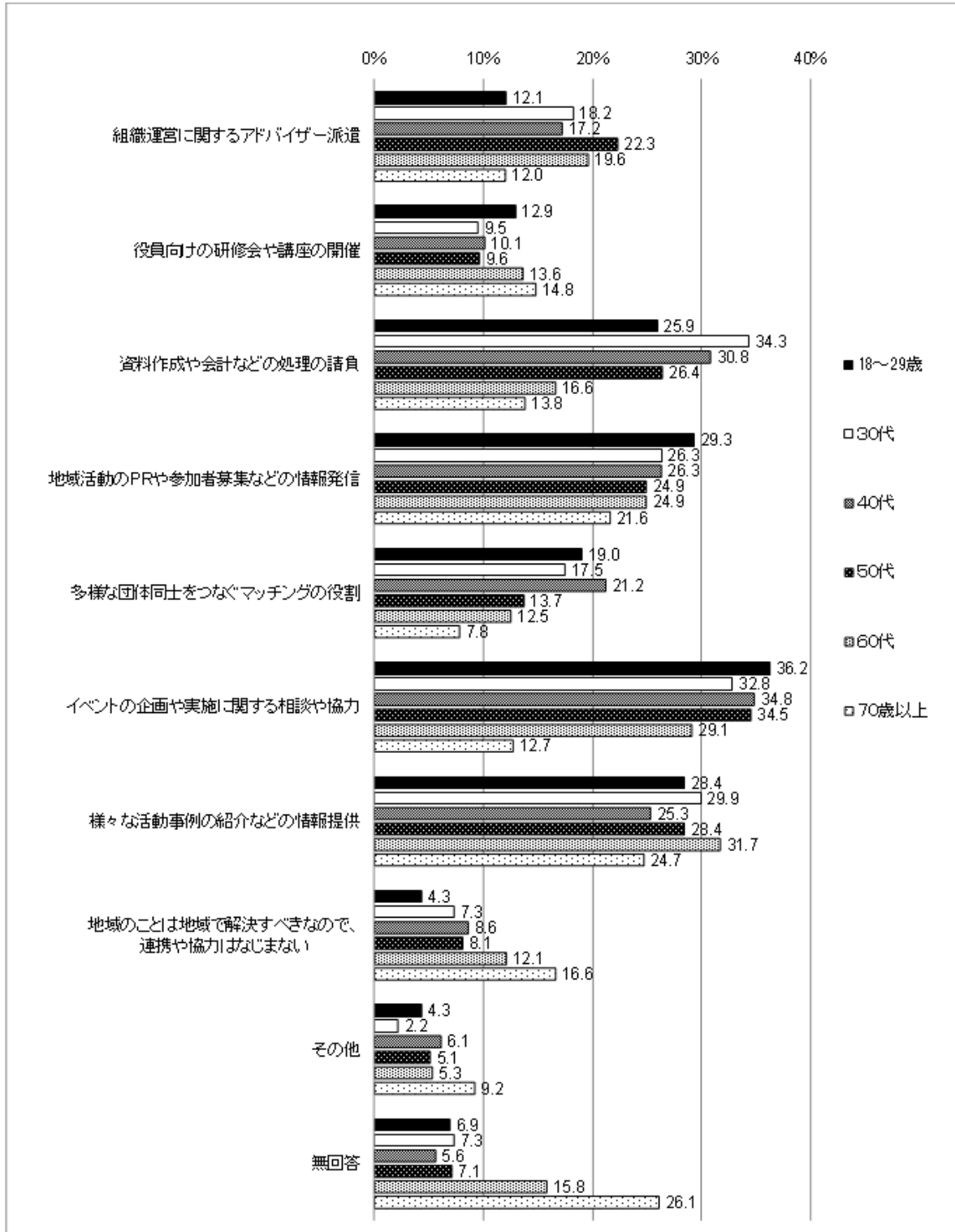
- 1 組織運営に関するアドバイザー派遣
- 2 役員向けの研修会や講座の開催
- 3 資料作成や会計などの処理の請負
- 4 地域活動のPRや参加者募集などの情報発信
- 5 多様な団体同士をつなぐマッチングの役割
- 6 イベントの企画や実施に関する相談や協力
- 7 様々な活動事例の紹介などの情報提供
- 8 地域のことは地域で解決すべきなので、連携や協力はなじまない
- 9 その他（)

【全体】



「イベントの企画や実施に関する相談や協力」が 28.2%、「様々な活動事例の紹介などの情報提供」が 27.9%と高かった。

【年代別】



「地域活動のPRや参加者募集などの情報発信」は、若い世代の方が割合が高い。一方、「地域のことは地域で解決すべきなので、連携や協力はなじまない」は年齢が上がるにつれ割合が高くなっている。

「全体を通じて」

「イベントの企画や実施に関する相談や協力」や「様々な活動事例の紹介などの情報提供」の回答が多いことから、これらの分野の支援強化により、問26・27で挙げられた「若い世代の参加促進」、「役員の負担軽減」、「組織体制の見直し」等の課題解決につながると考えられる。

※「その他」に記載された主なもの

- ・運営をアウトソースする。
- ・行政から町内会等に下請けさせることを少なくする。
- ・上部団体の会議が多すぎる。単位組織の自主性尊重を。
- ・地域と関係のない人の手まで借りなければ維持できないのであれば、やらなくてよいと思う。

【性別，年代別，地区別の回答数】

		対象者数	組織運営に関するアドバイザー派遣	役員向けの研修会や講座の開催	資料作成や会計などの処理の請負	地域活動のPRや参加者募集などの情報発信	多様な団体同士をつなぐマッチングの役割	イベントの企画や実施に関する相談や協力	様々な活動事例の紹介などの情報提供	地域のことは地域で解決すべきなので、連携や協力はなじまない	その他	無回答
	全体	1196	203	145	273	298	170	337	334	127	70	159
地区	河北	347	53	39	79	94	59	98	96	38	20	55
	河南	171	29	20	36	46	16	43	52	18	10	23
	盛南	165	28	20	57	50	25	54	39	11	10	18
	厨川	270	46	38	52	72	35	77	79	28	17	35
	都南	201	41	23	43	29	33	53	53	27	12	21
	玉山	42	6	5	6	7	2	12	15	5	1	7
性別	男	547	93	82	117	149	81	141	166	66	38	67
	女	649	110	63	156	149	89	196	168	61	32	92
年齢	18～19歳	18	3	3	4	9	3	8	6	1	0	0
	20～29歳	98	11	12	26	25	19	34	27	4	5	8
	30～39歳	137	25	13	47	36	24	45	41	10	3	10
	40～49歳	198	34	20	61	52	42	69	50	17	12	11
	50～59歳	197	44	19	52	49	27	68	56	16	10	14
	60～69歳	265	52	36	44	66	33	77	84	32	14	42
	70歳以上	283	34	42	39	61	22	36	70	47	26	74

令和元年度市民アンケート調査結果報告書
令和2年2月発行

〈発行・編集〉

盛岡市市長公室広聴広報課
〒020-8530 盛岡市内丸12番2号
電話 (019) 626-7517 (直通)

〈調査結果の考察担当〉

- ・盛岡市立図書館
- ・農林部農政課食と農の連携推進室
- ・環境部環境企画課
- ・市民部市民協働推進課

この報告書は再生紙を使用しています